平成26年豪雪対応に関する緊急アンケート調査報告書

群馬県建設業協会は歴史的大雪にどう対応したか

平成26年3月

一般社団法人
群馬県建設業協会
The Associated General Contractors of GUNMA

目　　次

１．はじめに･･･1

２．除雪現場からの歴史的大雪対応に関する提言・要望 ･･････････2

３．平成２６年豪雪対応に関する緊急アンケート調査結果 ･････6

４．平成２６年豪雪対応に関する緊急アンケート調査票 ･･････49

５．参考資料･･･56

①　群馬県内の最大積雪深（2 月 14 日～15 日）

②　2/14（金）からの大雪に関する情報（第２１報）概要
平成 26 年 2 月 28 日（金）18:00 現在総務部危機管理室・消防保管課

③　主な除雪機械と特徴

１．はじめに

今回の歴史的大雪により、不幸にしてお亡くなりになられました方々に心からお悔やみを申し上げますとともに、甚大な被害を受けられた方々に対しましてお見舞い申し上げます。

一般社団法人群馬県建設業協会の大多数の会員は、道路建設を担う建設業者として群馬県等と道路除雪委託契約を結び、降雪時の道路除雪業務にあたっています。

何時降るかわからない雪に対し、建設業本業で使う建設機械を活用して、従業員の使命感に支えられ取り組んでいますが、建設需要の低迷に伴い除雪体制の維持が困難となり、平成２１年には「除雪体制に関するアンケート調査」結果に基づき除雪体制の維持に関する警鐘を鳴らしたところです。

この警鐘に対して群馬県では、財政事情を勘案しながら県有除雪機械を計画的に増車し、委託契約を除雪作業の実態に合わせるなどの改善策を実行されています。

こうした折、本県は、今回の歴史的な大雪に見舞われました。

当協会では、会員がそれぞれの持ち場で除雪業務に奮闘したほか、平成２１年に整備した災害情報共有システムに報告のあった除雪現場の写真を当協会ホームページで公開し、あわせて初めての試みとしてツイッターにより発信しました。こうした試みは、普段見ることの少ない除雪現場写真が新鮮であった等の反響をいただきました。

こうした除雪の苦労も、春になり雪が消えるときれいに忘れ去られます。

しかし、今回経験した歴史的大雪は、どこの除雪現場でも今まで経験したことのないような苦労をしており、忘れてはならない多くの体験をしました。

そこで、除雪がまだ完了していない本年２月２４日「豪雪対応に関する緊急アンケート調査」を実施しました。また、調査中、会員から除雪作業中に人命救助をしたとの声が聞かれたことから「人名救助等実績」調査を追加実施しました。

本報告書は、当協会の歴史的大雪の対応報告ですが、道路除雪の実態や問題点、建設業や社会資本整備について県民の皆様のご理解が深まれば幸甚の至りです。

２．除雪現場からの大雪対応に関する提言・要望

１）今回の教訓を活かした大雪に強い社会づくりの推進

社会全体で災害対応の基本である自助、共助、公助の認識を深め、それぞれが可能な除雪作業に取り組むことが重要である。

限りある地域の除雪機能を効率よく機能させるには、積雪量にあった除雪機械の配置や、国、県、市町村が指揮命令の連携をとり、除雪対象路線の優先順位、除雪方法や雪捨て場を予め決めておくことが重要である。

また、道路に乗り捨てた車両の移動や、大型除雪車の指定路線外の稼働、ナンバープレートのない車両を除雪に活用するなどの緊急措置が合法的に取れるよう、現行法令を大雪対策面から改正することを検討していただきたい。

２）道路除雪は、地域の理解と協力が必要

大型の除雪機械の稼働は危険が伴うので、事故防止を図るため、公道の除雪作業中は除雪機械を優先する措置や、効率的に除雪を進めるため必要に応じて交通を規制する措置が必要である。

また、除雪グレーダーは路面上の雪を効率よく路肩に寄せられるため平坦地道路除雪の主力機械だが、民家の入口を寄せた雪で塞ぐため苦情が多く発生する。建設業者はできる限りの措置をとっているが、担当する長い区間の道路除雪を進めるために関係者のご協力をお願いしたい。

３）建設業の現在の除雪体制（要員・除雪機械）は、建設業の本業が安定しないと維持は困難

建設投資額の減少に伴い建設業者、建設従事者の減少が続き、建設従事者の高齢化や除雪機械の老朽化が年々進行しており、その対策を急ぐ必要がある。

何時降るかわからない雪に対して必要な除雪要員や除雪機械を備えておく経費は、除雪業務収入だけでは賄えない。

このため、建設業者の除雪体制を維持するには本業の経営が安定することが必要条件である。

４）道路（社会資本）は、県民の生活や経済活動の重要な基盤

今回の歴史的大雪は、重い雪が短期間に大量に降り積雪量が多かっただけでなく、降雪後も低温が続く悪条件が重なり、懸命の道路除雪作業により片道一車線を確保しても国道、県道、市町村道で激しい渋滞が長く続き、物流が途絶え商店の棚から食品や日常品が消え、中山間地で孤立集落が多数発生した。

普段当たり前のように利用している道路は、日常生活や経済活動を支える重要な社会基盤であることが痛感された。

また、多くの道路は、通常時の走行には支障がないが、雪を寄せるスペースがなく、歩道のない道路の危険性も改めて認識された。

県民の生活や経済活動を維持向上させるためには、計画的に道路整備を推進する必要がある。

５）道路除雪体制を維持する効果

アンケートの除雪体制の維持に関する設問については、①公共事業関係予算の確保、発注量の長期安定化、②除雪業務委託料の改善（単価アップ等）、③発注時期の平準化、早期化の順で、公共工事に関係する項目が多かった。

今回の歴史的大雪で、当協会員だけでも延２万３千人の作業員が道路除雪を優先して取り組んだが、民間（商店・工場）の要請にも延３千人が応じている。

また、除雪作業中の人名救助が多数報告されているほか、病院や学校からの除雪要請にも応えた実績が報告されている。

このように、公共工事量が安定して道路除雪体制が維持されることにより、民間（病院や学校、商業施設や工場）からの除雪要請にも応じられることになり、県民生活や経済活動の安心・安全に寄与できる。

３．平成26年豪雪対応に関する緊急アンケート調査結果

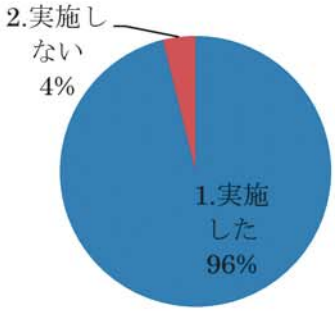
３．平成 26 年豪雪対応に関する緊急アンケート調査結果

調査概要

調 査 日　平成２６年２月２５日～３月３日
調査対象　３４５社　(一社)群馬県建設業協会会員・地区会員
回答社数　３０９社
回 答 率　８９．５％　※ 回答の無い企業は官公庁等との除雪に関する委託や協定等を締結していない企業が多く含まれる。

１．除雪作業の実施の有無

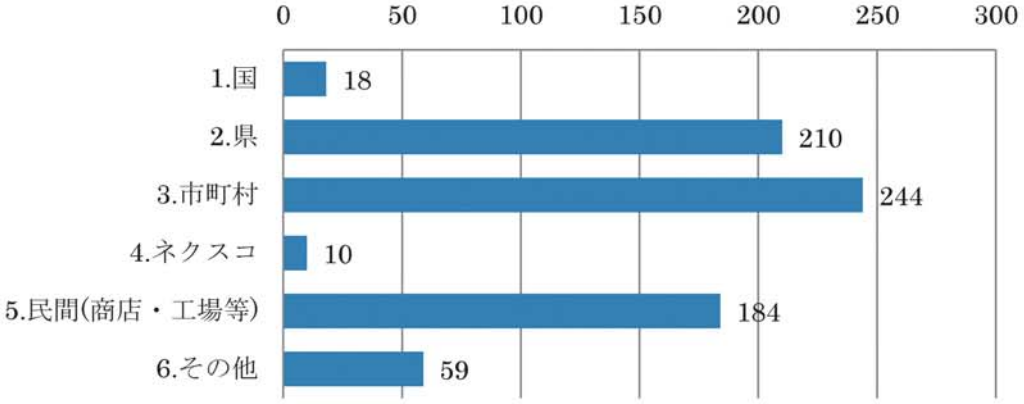
	回答数	割合
1. 実施した	297	96%
2. 実施しない	12	4%
計	309	100%



２．除雪作業の要請元（複数回答）

単位：社

1. 国	2. 県	3. 市町村	4. ネクスコ	5. 民間(商店･工場等)	6. その他
18	210	244	10	184	59



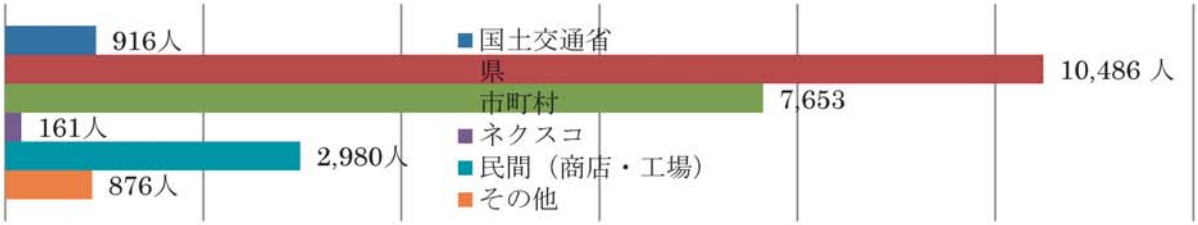
※その他
- 学校(幼稚園/保育園/小中高/大学)　17 件
- 個人住宅(周辺地域)　15 件
- 医療機関　12 件
- 介護/福祉施設　4 件
- 東京電力(変電所等)　5 件
- 公共施設/公共団体　8 件
- 鉄道会社/鉄道路線　3 件
- 警察署　2 件
- 元請企業　3 件
- 市場/葬儀場/ホームセンター　各 1 件

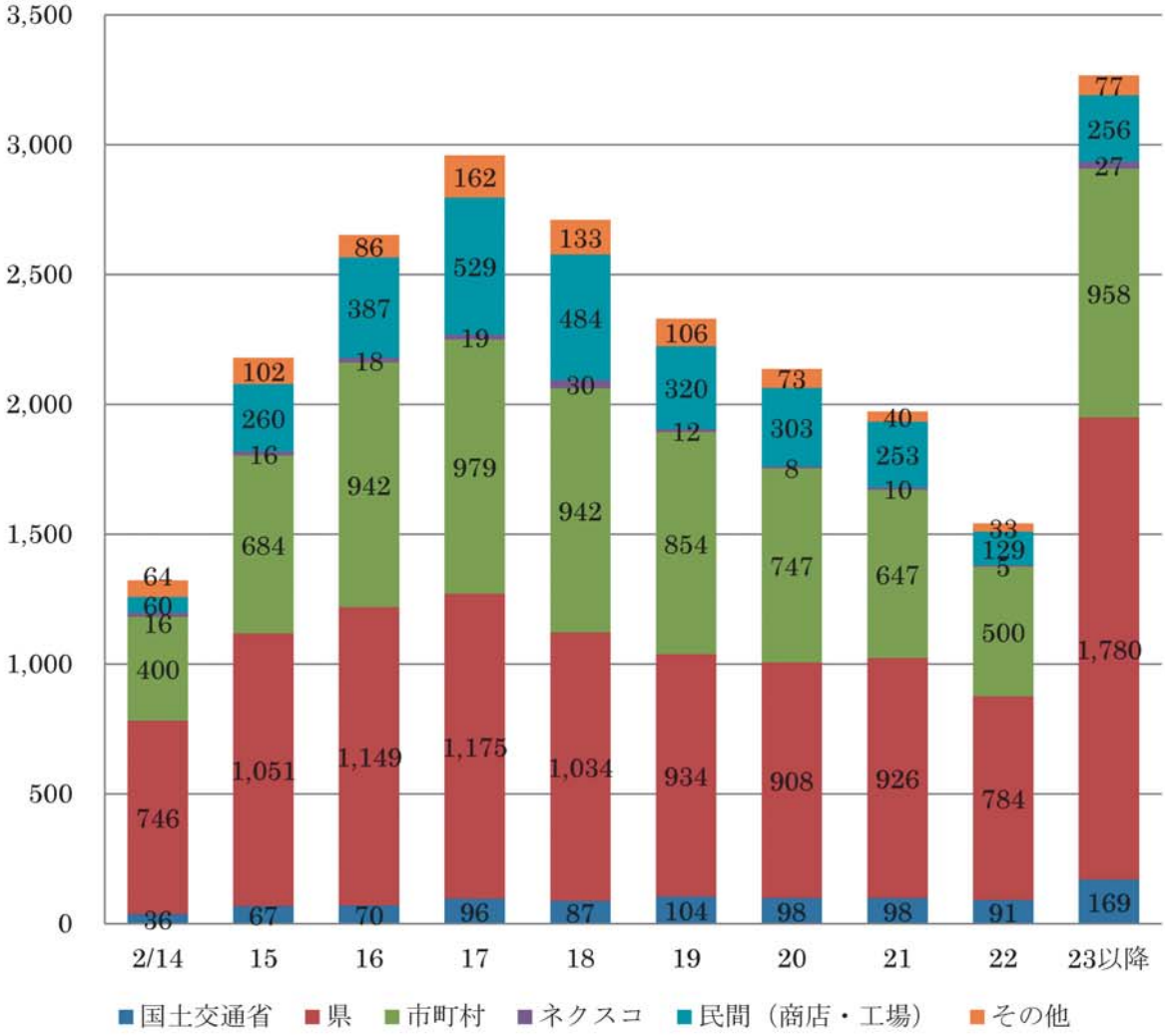
３．除雪作業を実施した作業員の人数

注１　作業人数には作業責任者を含む
注２　同一日に複数の要請元の作業をした場合はどちらにもカウント
注３　作業が昼夜に渡り日付をまたぐ場合も両日カウント
（例：１人が１４日２２時～１５日１４時　→　１４日１人、１５日１人）

単位：人

	2/14	15	16	17	18	19	20	21	22	23 以降	計
国土交通省	36	67	70	96	87	104	98	98	91	169	916
県	746	1, 051	1, 149	1, 175	1, 034	934	908	925	784	1, 780	10, 486
市町村	400	684	942	979	942	854	747	647	500	958	7, 653
ネクスコ	16	16	18	19	30	12	8	10	5	27	161
民間(商店･工場等)	60	260	387	529	484	320	303	252	129	256	2, 980
その他	64	102	86	162	133	106	73	40	33	77	876
計	1, 322	2, 180	2, 652	2, 960	2, 710	2, 330	2, 137	1, 972	1, 542	3, 267	**23, 072**



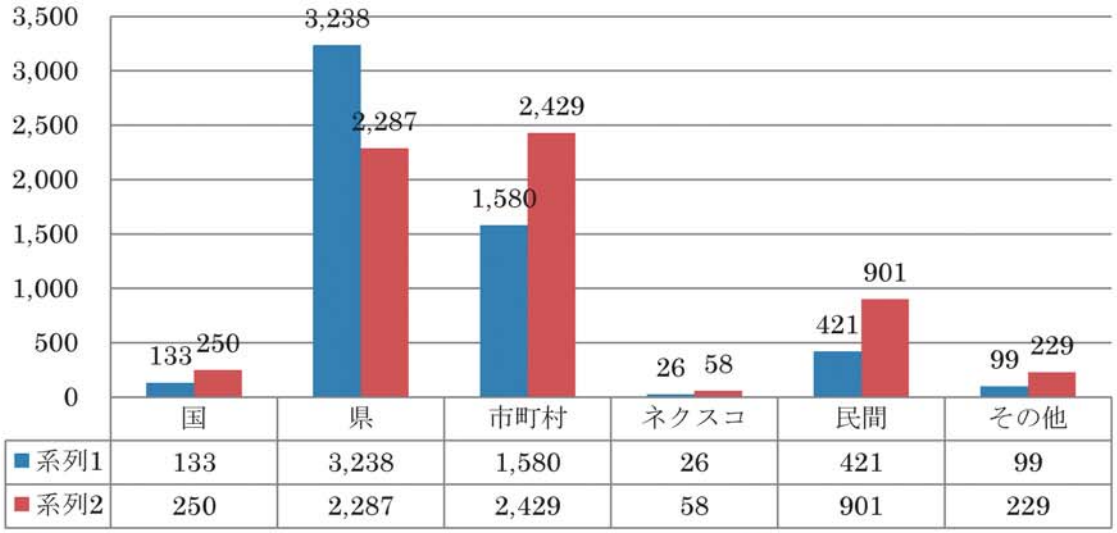


４．１４日から回答日までの除雪作業に使用した除雪専用機械と一般建設機械の延台数（１日稼働を１台とカウント）

注１　除雪専用機械は、県との道路除雪委託契約の分類
注２　一般建設機械は、通常の工事に使う建設機械を除雪に使った延台数
注３　同一日に複数の管轄路線で使用した機械はどちらにもカウント

単位：台（延べ）

		国	県	市町村	ﾈｸｽｺ	民間	その他	計
除雪専用機械（県との道路除雪委託契約分）	ロータリ除雪車	16	216	32	0	26	20	310
	除雪トラック	9	95	36	0	3	1	144
	除雪グレーダ	41	474	258	0	53	9	835
	除雪ドーザ	15	707	503	10	144	37	1,416
	除雪ローダ	7	291	258	4	108	26	694
	凍結防止剤	19	417	45	10	0	0	491
	車載式散布車	0	128	66	0	1	0	195
	小型除雪車	6	55	27	0	26	0	114
	スノープラウ	0	101	39	0	6	0	146
	ダンプトラック	20	643	233	2	34	6	938
	その他	0	111	83	0	20	0	214
	小計	133	3,238	1,580	26	421	99	5,497
一般建設機械	ブルドーザ	3	121	136	0	44	12	316
	油圧ショベル	101	992	1,103	6	384	94	2,680
	トラック	9	64	85	13	48	2	221
	ダンプトラック	111	764	673	29	249	64	1,890
	その他	26	346	432	10	176	57	1,047
	小計	250	2,287	2,429	58	901	229	6,154
合計		383	5,525	4,009	84	1,322	328	11,651

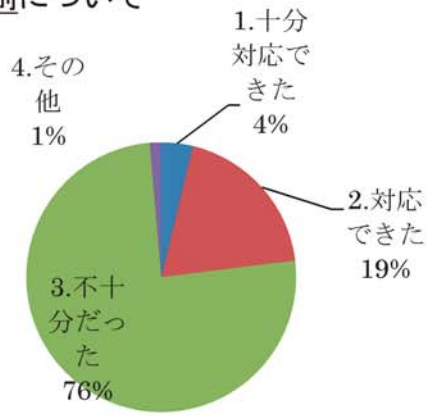


■系列１：除雪専用機械（県との道路除雪委託契約分）　■系列２：一般建設機械

5．今回の豪雪に対する所属管内の除雪体制について

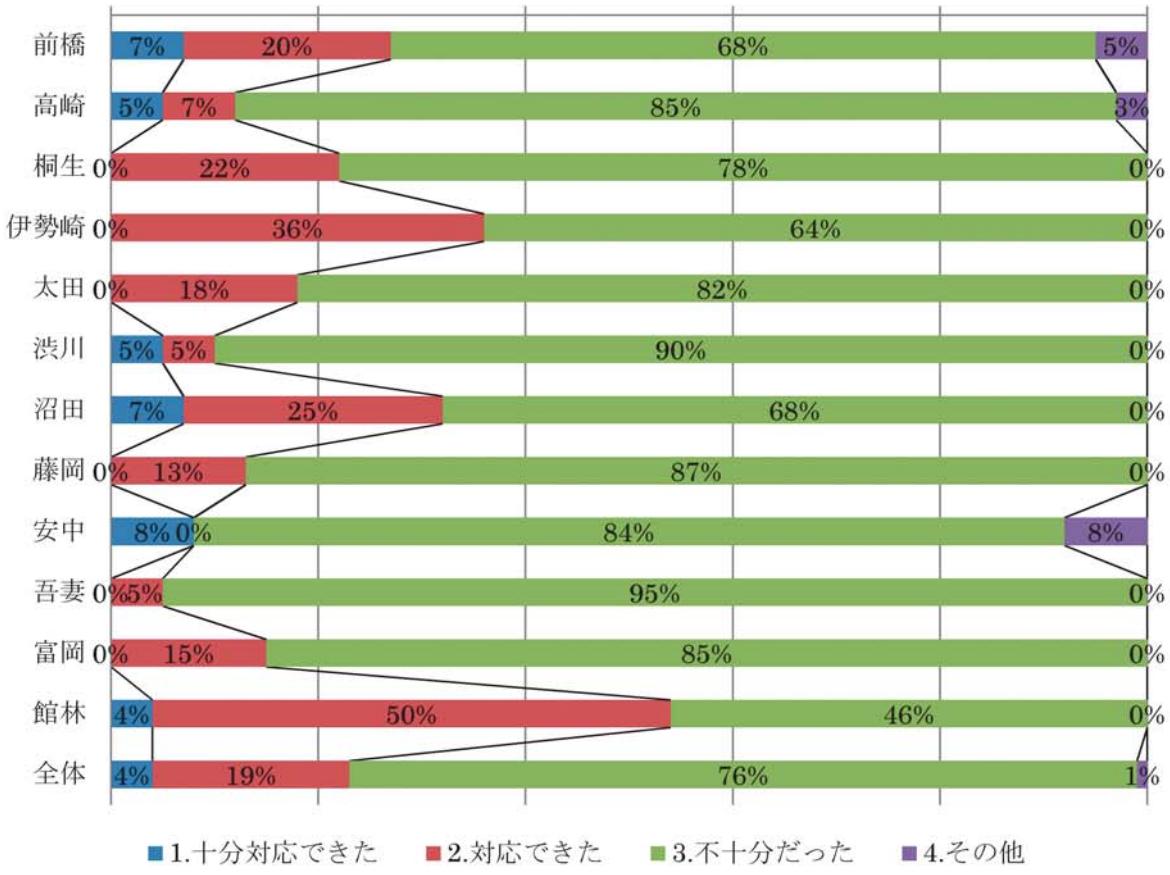
単位：社

1. 十分対応できた	11
2. 対応できた	56
3. 不十分だった	220
4. その他	4
合計	291



※ 計 291 社回答　除雪契約の無い企業や未記入があるため総回答社数と一致していない。

支部別回答（割合）



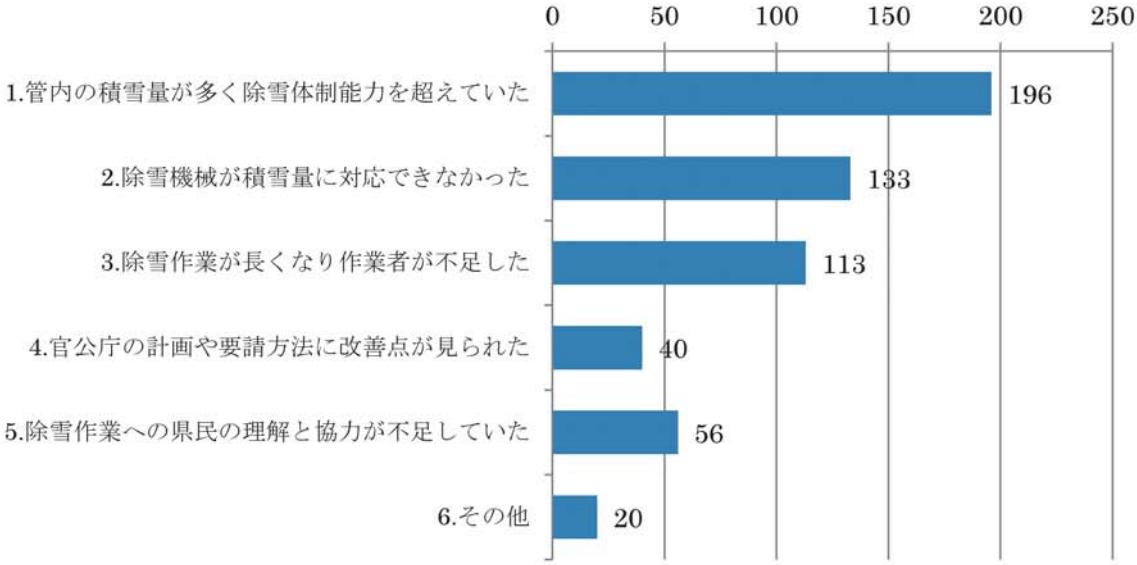
※ その他意見

- 災害なので何とも言えない
- 雪の置場所がなかった
- 15 日は家から会社に来られない人が多く会社周辺しか除雪ができなかった。
- 民間は対応できなかった
- 他工区まで要請があった
- 対応は出来たが積雪量が多く除雪時間が長時間かかってしまった。
- 雪が多すぎて対応できなかった
- 積雪量が多い為、時間は掛かったが対応した

５－２．所属管内除雪体制の不十分な点（各社３つ以内の選択）

単位：件

1. 管内の積雪量が多く除雪体制能力を超えていた。	196
2. 除雪機械が積雪量に対応できなかった。	133
3. 除雪作業が長くなり作業者が不足した。	113
4. 官公庁の計画や要請方法に改善点が見られた。	40
5. 除雪作業への県民の理解と協力が不足していた。	56
6. その他	20

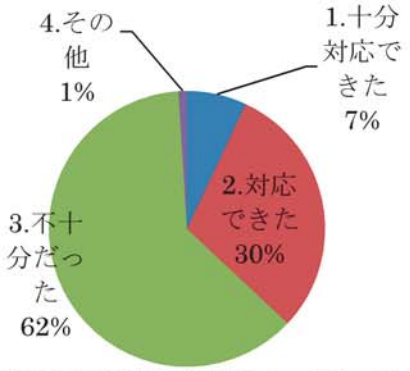


※その他意見
- 積雪によって機械にたどり着くまで時間がかかった
- 各業者の除雪に対する体制の不備
- 降雪のため出勤できないオペレーターや作業員が多かった
- 国道の対応が不十分だった
- 渋滞によって作業が停滞した
- 初動時期に移動範囲が限定され担当路線まで到着出来なかった
- 受け持ち以外の除雪要請があったが不十分であった
- 積雪量が多く、除雪機械の日進量が遅かった
- 雪の仮置場が用意してなかった
- 待機命令、作業開始命令が必要と思う
- 大型の除雪ドーザがほしかった
- 土日が入り、官公庁の指示が遅れた
- 除雪機械を保有する業社数が少ない
- 重機のリース品が不足していた

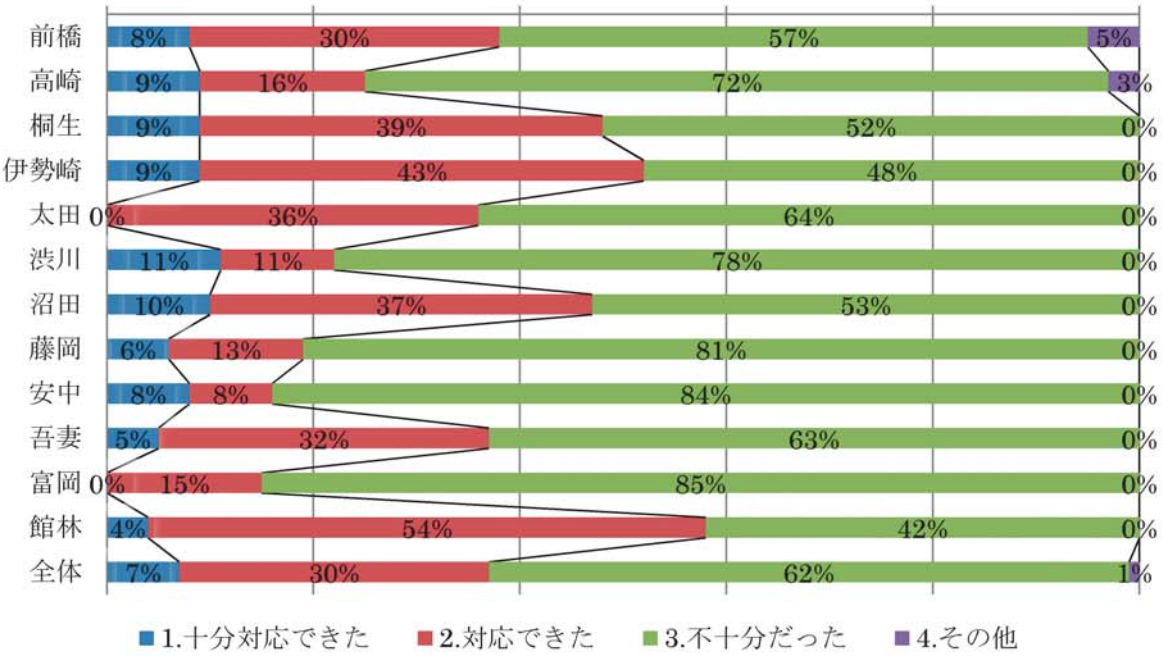
６．今回の豪雪に対する各企業の除雪体制について

単位：社

1. 十分対応できた	21
2. 対応できた	86
3. 不十分だった	182
4. その他	3

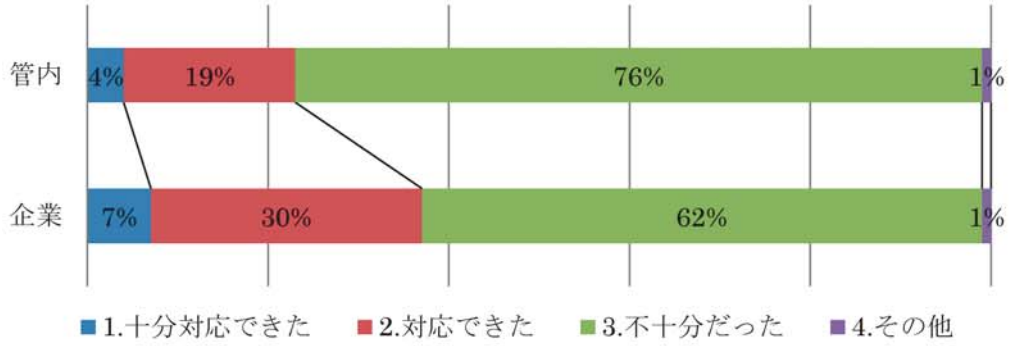


※ 計 292 社回答 除雪契約の無い企業や未記入があるため総回答社数と一致していない。



※その他
- 会社にも来られない人が多く周辺しか除雪できなかった。
- 作業員不足。除雪機械が対応できない。
- 対応出来たが積雪量が多い為に手間がかかった。
- これだけ降れば誰でも対応できない。

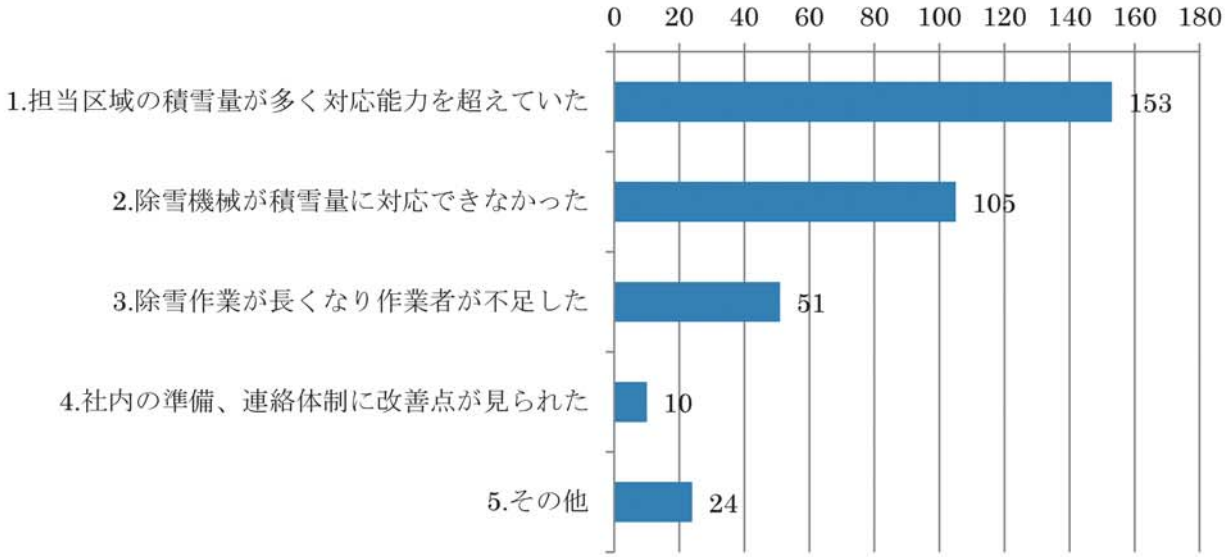
○ 管内全体と各企業の除雪体制の比較



６－２．企業の対応として不十分だった点（各社２つ以内の選択）

単位：件

1. 担当区域の積雪量が多く対応能力を超えていた	153
2. 除雪機械が積雪量に対応できなかった	105
3. 除雪作業が長くなり作業者が不足した	51
4. 社内の準備、連絡体制に改善点が見られた	10
5. その他	24

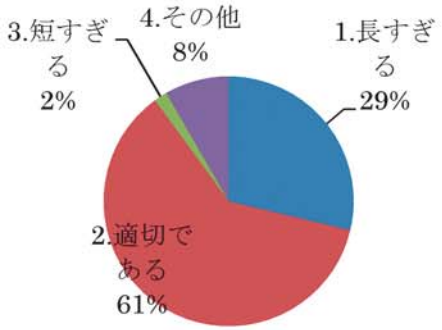


※その他　・一部の除雪機械が山間部にあり作業員が行けなかった
・運転手、作業員の出社が出来なかった
・作業員の通勤路が確保されない為作業員が不足した
・積雪が多く初動が遅れた　・積雪量が多く作業者が除雪路線まで行けなかった
・雪崩の危険があり、思う様に除雪ができなかった
・担当区域外を依頼され対応に追われた
・タイヤチェーンの準備が出来ていなかった　・ロータリ除雪車が必要だった
・除雪機械をストックできず足りなかった　・自社に重機/機械がなかった
・機械が必要です。人力ではムリ
・豪雪時に対する２次体制も考える必要があると思う
・社内で除雪体制を元々整備していなかった
・重機回送時、道路混雑により時間のロスが大きく響いた
・少人数での対応しかできない

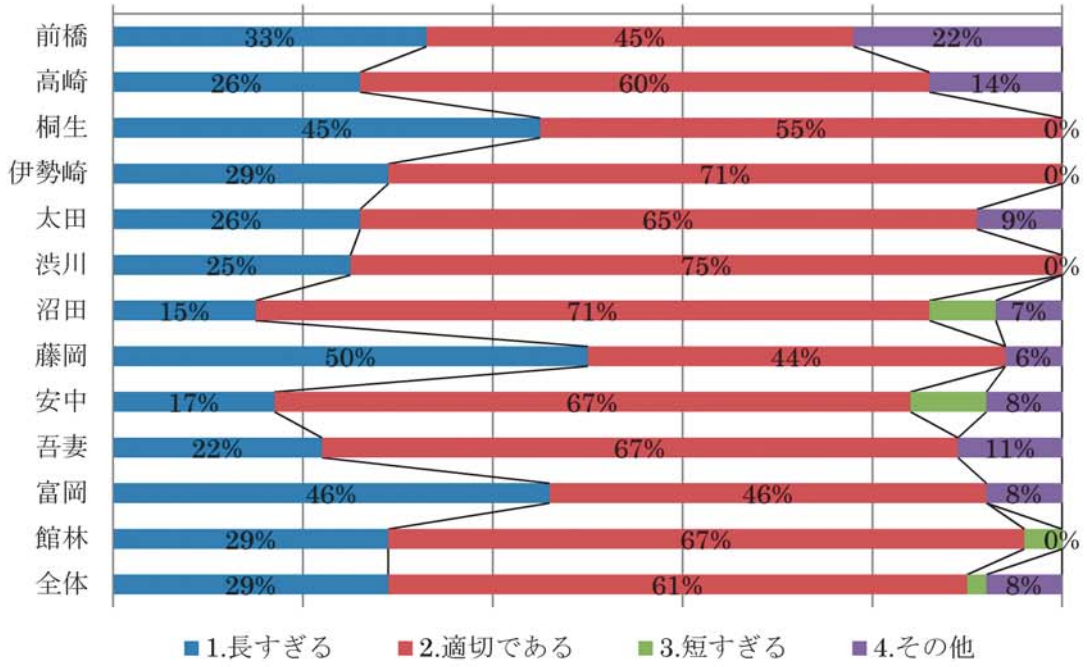
7．通常の積雪時における除雪担当区間（距離）について

単位：社

1. 長すぎる	83
2. 適切である	177
3. 短すぎる	5
4. その他	24

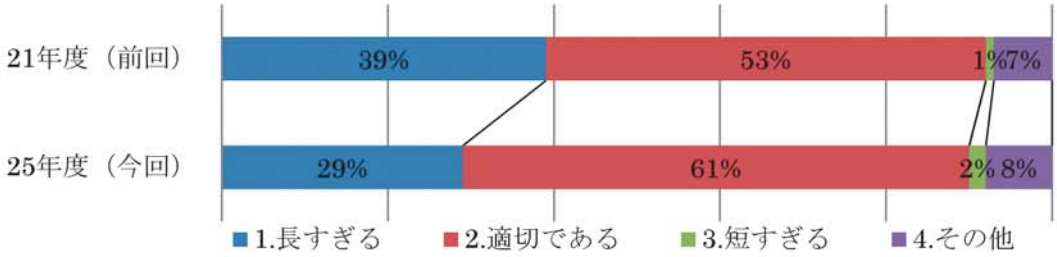


※ 計 289 社回答 除雪契約の無い企業や未記入があるため総回答社数と一致していない。



※その他
- 年々、長く感じる様になった。
- 通常なら適応出来るが、今回の量になると困難
- 拠点からの移動距離が長い。回送が困難である
- 歩道除雪が多く区間が長すぎる
- 当社は凍結防止剤の散布のみの契約
- 少し遠い
- 降雪時間によるので、わからない
- 市街地と山間地があり両方の距離が長い
- 現在の区間が限界と考える
- 状況によるが…
- 担当区画は無いので自主的に行い後に役所の指示にて対応した

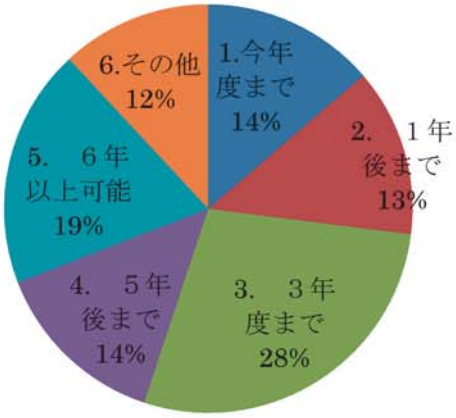
○今回の調査と平成２１年度の同様調査との比較



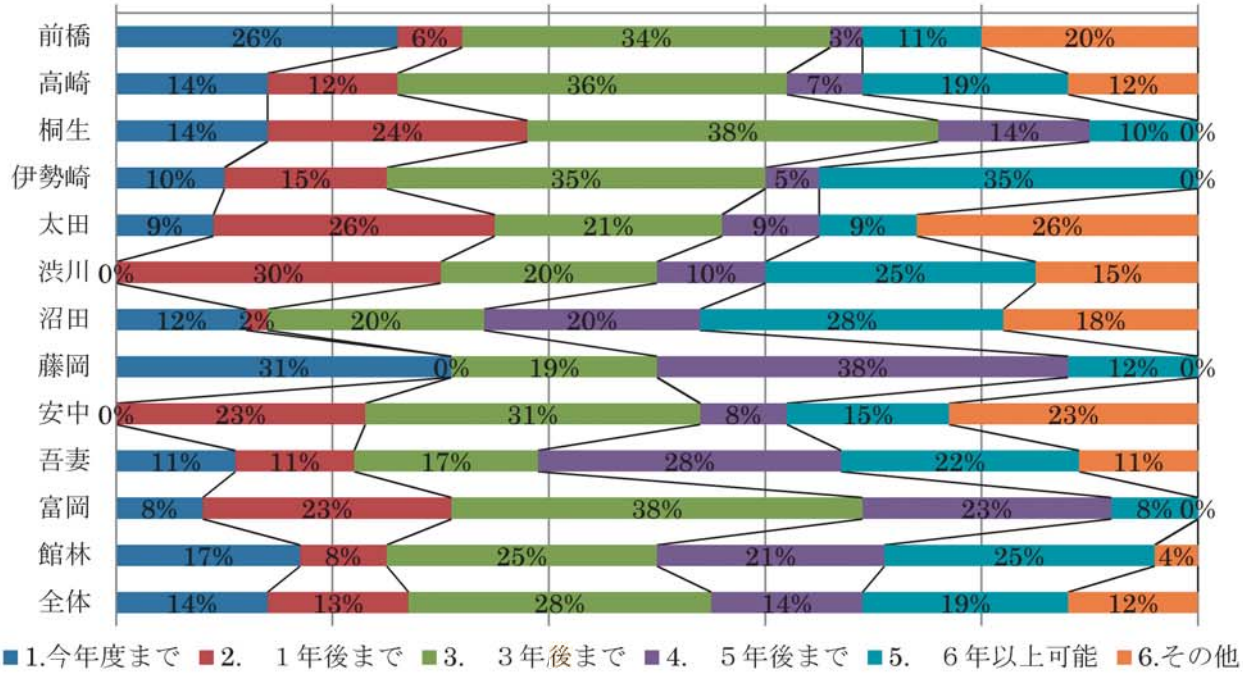
８．現状（担当距離・受注環境等）が継続した場合の除雪体制維持

単位：社

1.　今年度まで	39
2.　１年後まで	38
3.　３年後まで	80
4.　５年後まで	40
5.　６年以上可能	54
6.　その他	34

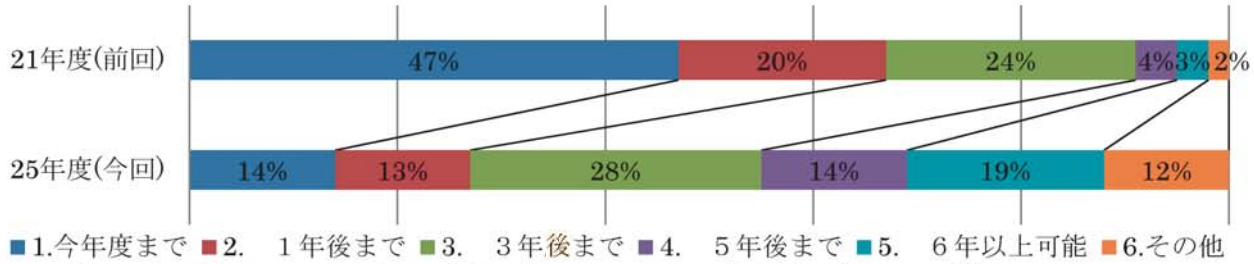


※ 計 285 社回答 除雪契約の無い企業や未記入があるため総回答社数と一致していない。



※その他
- 今のところ対応可能
- 会社の営業が続く限り可能
- 除雪機械が壊れなければ可能
- 除雪機械が老朽化している
- 除雪の為だけに、機械の維持が困難
- 担当が転勤になったら無理
- 今回の積雪量では、現状でも無理
- その時の状況による
- オペレーターの高齢化で今回のような長時間作業は大変
- 積雪量による
- 担当区画無し
- 分からない
- 公共事業発注量による

○今回の調査と平成２１年度の同様調査との比較

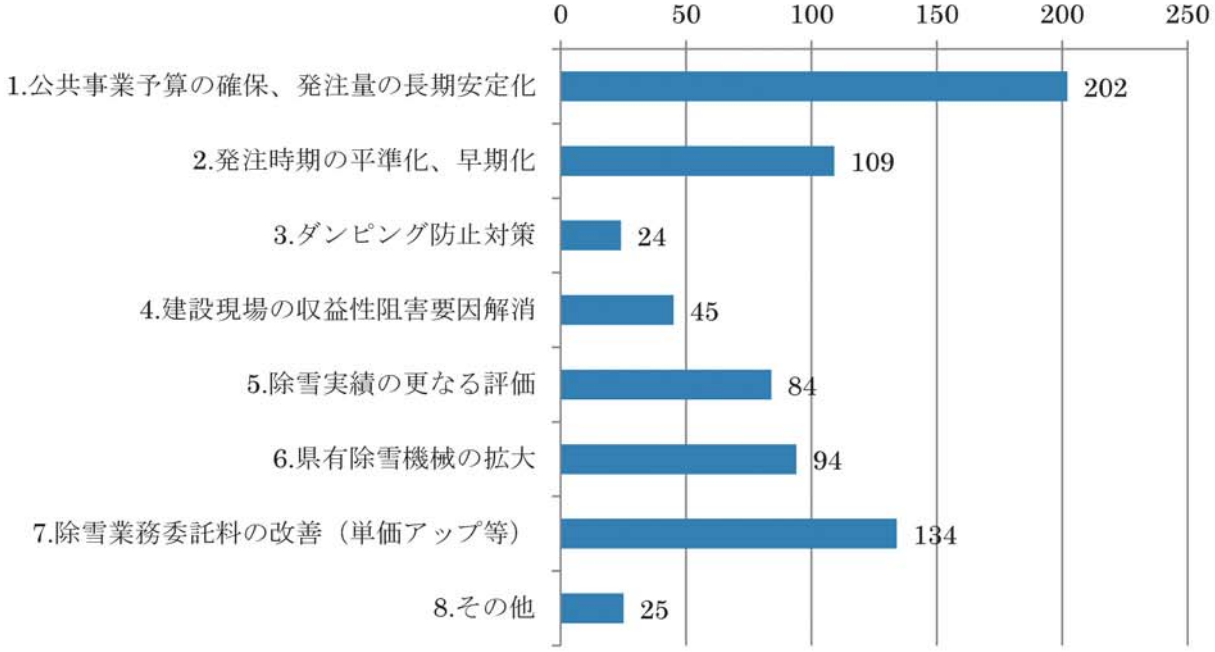


※ 前回調査は「今年から不可能（11 月時点）」があるため、この回答を「今年度まで」に合算して比較

８－２. 除雪体制を維持するのに必要な事項（各社３つ以内の選択）

単位：件

1. 公共事業関係予算の確保、発注量の長期安定化	202
2. 発注時期の平準化、早期化	109
3. ダンピング防止対策（低入札価格調査制度の充実強化等）	24
4. 設計の不備等、建設現場の収益性阻害要因解消の徹底	45
5. 入札契約制度における除雪実績の更なる評価	84
6. 県有除雪機械の拡大	94
7. 除雪業務委託料の改善（単価アップ等）	134
8. その他	25



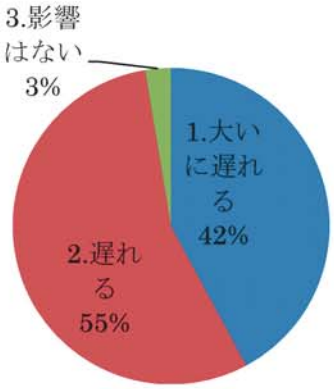
※その他　・除雪を本業として見られる改善　・協会（業者）で担当区域を分割化する。
・直営で施工能力がある会社の評価　・直営作業者の雇用増大
・人材育成と確保　・若手オペレーターの育成、雇用
・リタイヤしたオペレーターの登録制度（緊急時のオペレーター不足の解消）
・除雪に対する各企業の責任感の徹底　・地域住民の協力と理解
・除雪作業した場合、元請工事の工期の延期
・建設機械を自社で保有継続出来うる環境の整備
・下請業者の確保
・建設業界の長期安定化に伴う、従業員の雇用の増化
・若年層雇用の確保　２大型特殊等資格者の確保
・除雪管理の徹底（人員配置・書類管理・苦情対応）
・待機機械費用の発注者負担

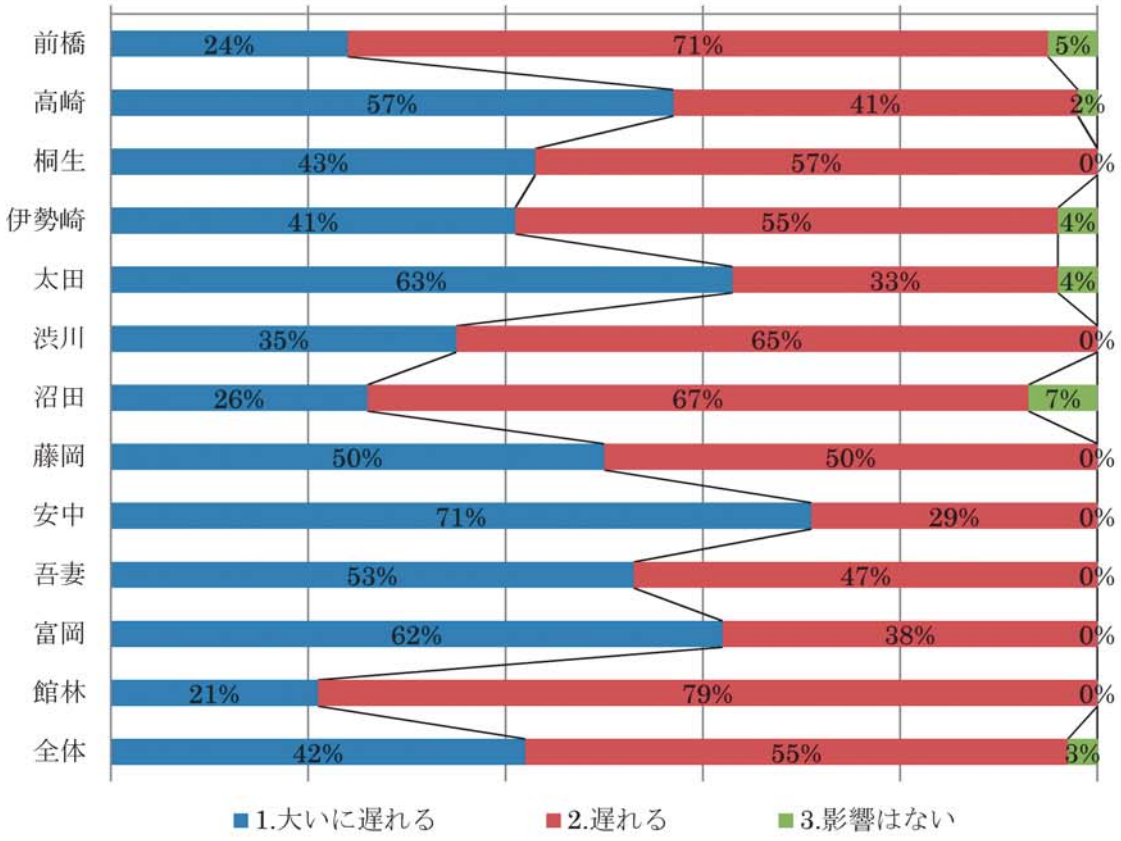
９．今回の豪雪による工事進捗への影響

単位：社

1. 大いに遅れる	128
2. 遅れる	168
3. 影響はない	8

※ 計 304 社回答 未記入があるため
総回答社数と一致していない。

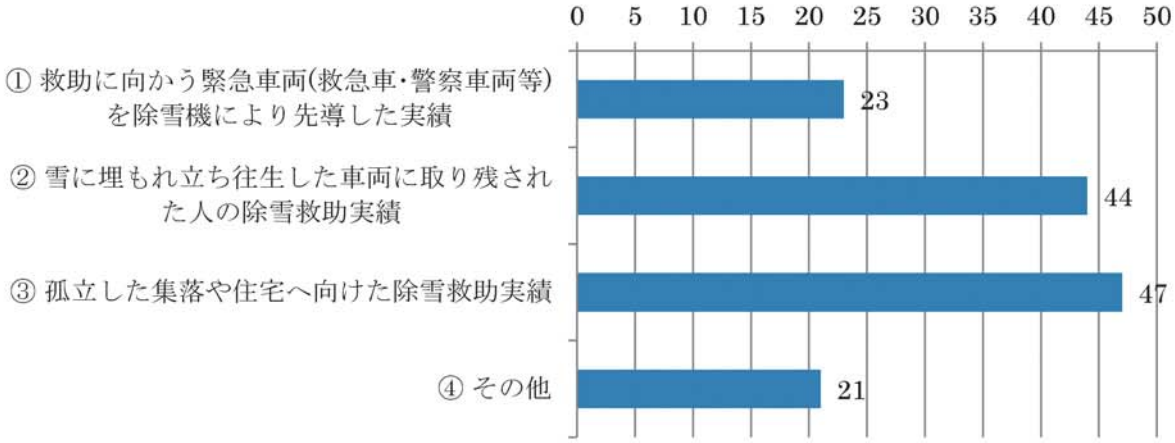


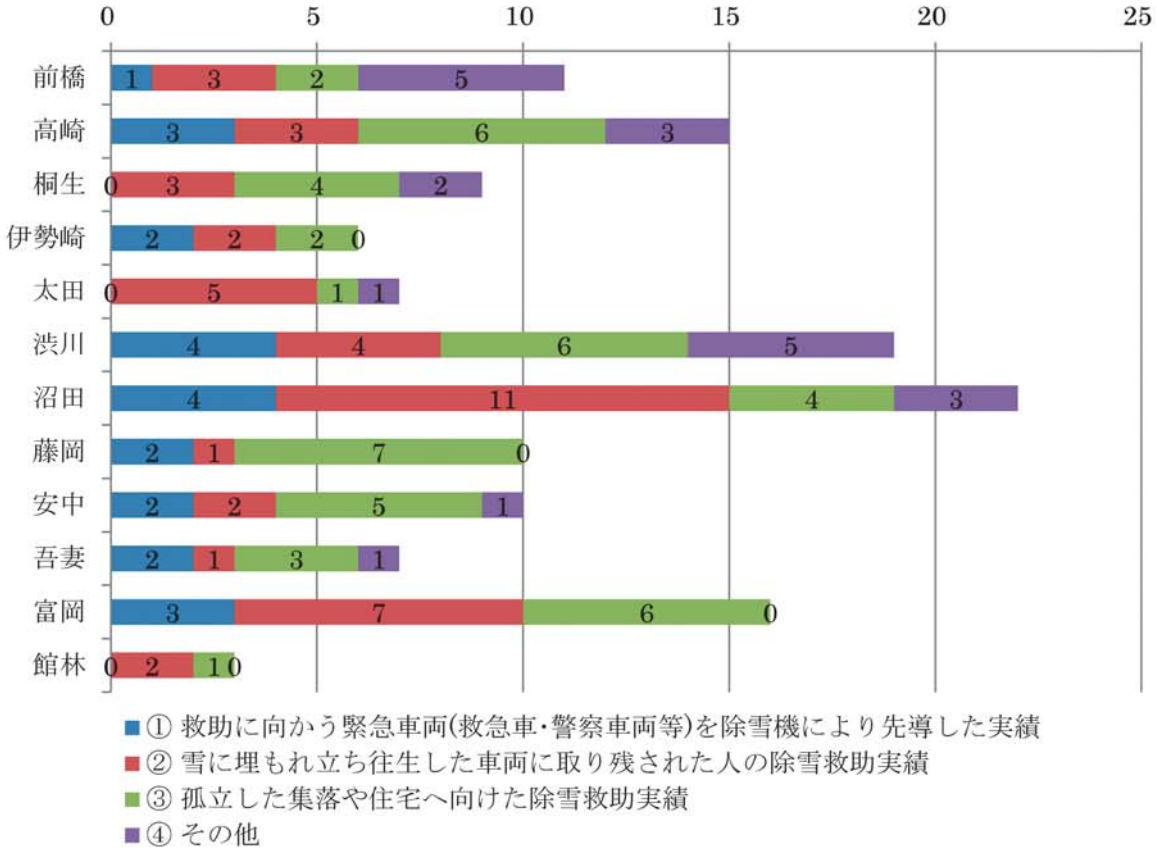


■ 人命救助等実績報告数

単位：報告企業数

① 救助に向かう緊急車両(救急車･警察車両等)を除雪機により先導した実績	23
② 雪に埋もれ立ち往生した車両に取り残された人の除雪救助実績	44
③ 孤立した集落や住宅へ向けた除雪救助実績	47
④ その他	21
計	135





※具体内容はP. 41 から掲載しております。

自由意見

項目１　国、県に対する要望・提言

・ 降雪状況の正確な把握がされておらず、苦情処理対応で混乱がみられる。
・ 無駄な外出を控える、除雪機械に近づかない等の注意喚起をもっとしてほしい。放置車両、渋滞などで除雪作業が出来ず、後日再度除雪要請などがあり、他の箇所が出来ない、作業時間が長くなるなど悪循環が生じた。
・ 今回のような大雪の場合、国、県、市で連携し、効率的な除雪を行うための指揮系統を早くに立ち上げて欲しい。・施行中工事の工期に係る県の方針を早急に提示して頂きたい。工期が差し迫った中、除雪作業に割く人員、機械の比重が決めかねる為。・除雪作業を行うための待機についての指示、要請をはっきりと出して頂きたい
・ 主要道路等をはじめ、除雪作業が大きく遅れたと思われる。
・ 住民の苦情、要望等を聞き入れ過ぎだと思う・除雪当初喜んでいた人が、時間がたつにしたがい苦情を言ってくる・住民側の豪雪時に対する規則等も必要だと思う（除雪時、自宅のブロックに雪を押しつけても良い等の事）
・ もっと市町村と連携を取ってもらいたい。
・ 国道１７号の除雪が遅かった為、国道上で動かなくなった車両の放置により県道の除雪に手間が掛った。・今回の大雪では、グレーダーの運転手他作業員が家からすぐに出て来られず、除雪開始するまでに時間が掛ってしまった。１４日での待機依頼は１４日昼間の担当者待機だった為１４日夕方にパトロールを行い、橋梁部等に塩カルを散布しました。天気予報では雪がやむのは、１５日１０時頃だったので翌日雪がやんでから除雪を開始すれば良いと思っていました。ゆえにグレーダー運転手作業員を会社待機にすれば、もう少し早く対処出来たと思う。ただ運転手作業員も家庭を持っているので道路の雪かきをしていた為、自宅の対処が出来なく被害を受けたとの声も聞きます。
・ 土木関連の業者の苦労を見ると大変だったと思いますが、我々建築のみの業者としては民間の対応が多いので電話が有れば現地に行かねばならないのですが、除雪作業が遅いのと交通渋滞で市内だけでも１日に２件か３件の対応しか出来ませんでした。特に感じた事は交差点全体の除雪が無く一車線除雪なので右折車が一台あれば一回の信号で一台の通過とな渋滞が余儀無し？今後の対応に参考になればと思い提言致します。
・ 主に県道の除雪をグレーダー２台で開始したが、担当路線が長く出発地から近い路線を除雪した（Ｒ３５３）。内の除雪も依頼され１台が移動したが渋滞にはまりムダな時間を費やした。除雪依頼では道路状況（混み具合）なども提供してほしい。
・ 除雪作業途中で状況判断（路線の変更等）の指示があったのは良かった。拡巾除雪等は雪の運搬処理をしないと片付かないので早期に捨場の指示があればよりスムーズだったと思います。２次除雪等（歩道の拡巾）の判断が難しい。
・ 除雪専用機械（グレーダー）が、通常と違い、フル稼働したため、修理が必要となり、これから整備工場で修理しなければならなくなった（バックホーも同様）。レーダーは年間を通じて、除雪作業でしか使用しておらず機械固定費だけでは、維持していけない状況である。修理費も考え、これから所有していくことが、大変である。
・ 国道、県道、市道の幹線道路どこか１つでも除雪ができない（遅れる）と大渋滞

になってしまう。国、県、市で今回の様な大雪の場合、総合的な除雪計画が必要と思う。

- 除雪の対応について初期動作は各社の判断で動けるようにさせてもらいたい。
- 県の札参加における除雪業者の評価は県と単価契約をしている業者に限る。その会社から要請があり、管内を除雪する班内会社は評価を得られない。来年度入札参加においても評価なしとのこと。その点を考えて欲しい。
- 雪の置き場の確保が必要であること。
- 担当路線の距離が長い。より多くの業者に参加協力してもらう。除雪単価の引き上げをお願いしたい。
- 国、県、市町村の一体性がなく、除雪区間、順序、時期などがバラバラで非常に困りました。除雪作業を行うには機械、人員が絶対に必要ですが、工期に追われている現場については現場の除雪作業がメインになり、機械、人員的に不足していました。国、県、市町村が一体となり、全現場を休工にし、除雪作業にあたらせもらえれば、今回２班で行っていた除雪作業が少なくても６班以上で対応できたのではないかと思っています。国、県の工事については元請け業者がいるので、発注者が現場を休工にし、管内の除雪作業にあたるようになど、元請け業者に指示してもらえればより早い除雪作業を行えたのではないかと思う所です。
- 今回のような豪雪に対しては、担当路線延長が長すぎて対応できなかった　今後は、業者すべて災害対応にする組織作りが必要と思います。
- 渋滞防止の為、夜間の除雪指示がありましたが次の点から日中からの除雪が必要と考えます。・片側複数車線で一路線のみ通行可能のパターンが多いが、通行不能の車線上に除雪機械、その他車輌、作業員が配置となるため、渋滞への影響はあまりなし。・日中解けた雪が夜間再び凍るため作業効率が悪化する。
- 除雪箇所の優先順位の作成・除雪時の交通規制。放置車両対策・国道・県道・市道と道路には色付けはないので一体的な除雪体制の整備・地域住民への除雪活動状況の情報開示の方法の検討・除雪後の各戸の出入口除雪の協力依頼。・除雪そのものを通常業務としていない地域での除雪体制（業者による）そのものを維持していくには各地域の業者そのものを維持できる体制を是が非でも堅持できる受発注システムを構築して頂きたい。
- 大雪に対応する大型機械、オペレーターが必要。
- 想定外の降雪だったため準備が十分でなく、何を優先すればよいのか判断ができなかったように思う。当初は一つの窓口で対応していた様だが、要請が多いためか窓口が分散されたことにより、情報が混乱して指示が統一されなかったと思う。今後は地区ごとに優先順位と担当事業者を決めて対応すればよいと思う。
- 県道と市道の担当路線があり離隔している。最近でも２班体制（場合によっては３班）必要となり、対応しきれない。国・県・市が一体となり路線のみでなく地域分けの担当となると迅速な対応が出来ると思う。今回は１４～１５日早朝へかけての積雪量が多く、出動していた施工班が帰れなくなり、担当以外の路線まで除雪を行い、岐路を確保する様な状況だったため地域単位で担当路線を定めたほうが交通の確保からも有効と思われる。
- 主要国道・県道の交通規制を早期に行い、マスコミを通じて周知させ、道路内に一般車輌を入れない。→除雪作業の効率ＵＰ。
- １．今回のような予想を超えた降雪の場合、工事中の現場に対し中止の指示を出して作業員及び機材が除雪業務に専念できる環境が必要なのでは。２．除雪作業を行う路線の優先順位の指示が必要です。３．当社で保有している機械では、積雪量３０ｃｍを超えた今回のような場合ある意味能力の限界を感じました。また、

人員においても交代要員配置、交代作業を行う感覚がないので無理な作業を強いてしまった感があります。

- 今後また今回のような降積雪があると予想するならば、除雪車の配備、作業員の待機（できる場所の提供）、他業者との提携。（今回は）要請があってもすぐに作業員が出動することが出来なかった。マニュアル通りに警備員がいないため配置することが不可能だった。
- 当社は砂まきのみで特に変化なし。
- 除雪作業現場の実態をもう少し役所に分ってもらいたい。役所に対し苦情が多いのはよくわかるが、業者も鋭意努力しての作業結果（時間）なので、今後の見直しもよく検討してもらいたい。契約の問題で、実際除雪が出来るのか、設備が整っているのか詳細を把握し契約したほうがいいのでは。今回の大雪を教訓として体制の再編を協会と協議していただき適材適所にて契約していただきたい。
- 通行止等の判断を早急に対応してもらいたい。・各路線の情報を把握して除雪の順序を計画したい。
- 迅速な対応
- 除雪作業委託の更なる単価アップをお願いしたい。
- 雪の排雪箇所の確保
- 例年の積雪量であれば問題ないが、今回のような大雪だと道路わきに排雪しただけでは、交通の確保が難しいと思いました。除雪した雪の置場の確保と、それまでのルートの迅速な確保が望まれる。道路の除雪を行うと、民家等の入口に雪がたまってしまう。これを除雪しないと苦情の原因となるが、都度除雪していたのでは作業が進まない。「交通確保の為、各戸の入口部分に関しては、住民等の協力も必要である」との広報活動等を行ってもらいたい。
- 民間人に対し個人で雪かきをする様に指導してもらいたい。特に歩道部は、対応機械が無い為、人力となるケースが多く隣接する個人が作業する様に指導して下さい。建設会社が除雪する事が当然という概念を消して下さい。除雪プラウ・ブレード部の損傷費がどうしても発生する為に費用をみて下さい。除雪機の無償提供（維持費損料も全て支給）
- ※今回の様な大雪の場合、各土木事務所及び市町村は全ての発注工事に一時中止をかけ、全ての請負業者に除雪作業を実施させる対応をとっても良かった。協力した現場の工期は速やかに延長をすれば良い。※雪の捨て場が事前に確保してあると良かった。※除雪業務を委託している建設会社に県道の除雪班と市町村道の除雪班が兼務していないか確認しておくと良かったと思う。
- 設問【除雪体制を維持するには何が重要か】と重複してしまうが、重機械と人材を自社で確保、保有できるよう、施工能力の体制を維持している会社の評価を見直し、合わせて受注機会の拡大を設けていただきたい。
- 今回みたいな雪の量が多い時に積み出した雪の置場を確保してほしい。除雪作業で現場がかなり遅れたので、そのへんを考えてほしい。現場の除雪でもかなりお金がかかったので考えてほしい。
- 今回は雪の量が平年をかなり上回った為、グレーダー所有の会社でも故障があったと聞いています。年数が２０年を超している機械も多くあると思います。買い替えをしたくとも、仕事の先が見えず、機械の更新が難しい現状です。是非とも、工事の安定発注年間の工事の平準化をお願いします。グレーダー等は排ガスの四次対策が行なわれず、生産を中止しているとも聞いております。緩和処置等の考えは無いのでしょうか。
- 県貸与の除雪機械増やして頂きたい。（除雪トラック＋プラウ等）

・ 除雪作業に着手する前に除雪箇所の優先順位を確立し、指示していただきたい。・除雪グレーダにより路肩（民家入口等）によってしまった雪は個人個人で処理していただけるような制度を作っていただきたい。
・ 学校関係者からの要望ということで歩道のない県道の路肩の雪の除去を指示されましたが、通常通行確保の観点から過度な要望受け入れと感じなくもありません。
・ 除雪後の雪の処理、受入地の問題
・ グレーダーの単価をあげてほしい（チェーン、点検）・県における除雪の機械をもっと持ってほしい・県から除雪の順番を指示してほしい（優先する所）・大雪の場合には、各現場を止めて、除雪の優先を指示してもらいたい。・何日かすると、各現場が動き始めると、除雪を優先できなくなってしまう。工期がなくなってしまうと大変なので、その所を指示してください。・他の業者との連絡が不十分なため、ムダなところがあった。
・ 除雪機械の確保（レンタル）がむずかしい。橋及び歩道橋の除雪に人力が必要で人数の確保ができない
・ 各地域にライフラインを守る、機動力のある建設業者が必ず必要であることを認識しました。今後もいつまた大きな自然災害が起こるかわからないので基幹会社を設置し、責任ある迅速な災害への対応が必要と思われます。
・ 除雪作業に人員が必要となり受注工事が実質ストップしてしまうので工期の検討をしてほしい。
・ 除雪担当路線以外の除雪の要望が多くあり、担当路線の除雪が濃密に出来なかった。
・ 今回は雪が多すぎる為、雪を排雪する場所がありませんでした。車が通行できる車幅の確保と雪の深さを浅くするくらいしか対策がとれませんでした。それ以上の作業はかなり難しいと思います。
・ 除雪区間が長い。（１８ｋｍ～２０ｋｍ）
・ 狭い道路では除雪した雪の置場に困っていたので置場の確保を願います。
・ 人材、除雪機が不足で大変であった（重機、タイヤショベル等不足）。景気回復の傾向ではあるが、以前のリーマンショック時代の不景気から倒産、人手が離れてしまった業界の余韻はいまだ回復できず、苦しい状況である。協力業者、機械リース屋も維持費削減で重機残無し。もっと人件費を支払できる環境にしてこの業界に貢献できる人員を集めるようにして機械も多く使う環境にする。
・ 除雪機械を保有又は貸与されている業者が除雪し、その後を各路線の対象業者が出入口等の除雪を行う方法がとれないでしょうか？イベントがある場合の除雪は各支部での対応ができないでしょうか？（マラソンイベント等）
・ 除雪ドーザにての除雪体制で作業を行なっているが、今回の様な豪雪では路線が長い為除雪グレーダを所有している会社でないと対処しきれないかと思います。県所有の車両をリース願いたい。
・ 雪の処分場を確保し道路脇に出来るだけ残さない為の体制の構築が必要と思われる　除雪対応が進まない時の優先順位の情報の共有化が必要と思われる
・ 過去に経験のない豪雪のため初期対応の遅れがあったのではないか。・平地では除雪専用機械が無いので今回の積雪量に対応できなかった。→除雪専用機械の配備も必要ではないか。
・ 従業員１０人に見合った除雪作業体系を見直して欲しい。・豪雪対策として、国、県で除雪車を保有し、雪害が無い時は、他県へ貸出す。
・ 警察車両の出動に影響がある旨の連絡があったので至急警察に出向いたが実は署員の自家用車周辺の駐車場の除雪だった。市民も困っている時だけにもう少し配

慮してほしかった。

- 車道と縁石の境目が分からないくらいの量だったので何か（ポールコーン等）分かるような目印があればありがたいと思った。
- 今回の豪雪では、除雪した雪の持って行き場がなく路肩に寄せることしかできなかった。どうしても通行の支障となってしまう場合、自社の建材ストック地へ運搬した。今後除雪した雪の捨て場を早急に確保していただきたい。（自社に運んだ雪が支障となり他現場の進捗にも支障が出てしまった。）
- 厳しい経営環境が続き体力低下している業者も多いと思われる。この為除雪機械の更新がむずかしい状況にあります。又オペレーターの高齢化も進んでいるように思われます。改善の為には、公共工事の発注量の長期安定化を御願いしたい所であります。
- 今回のような特殊ケースの場合、公側では地域住民への除雪体制の説明・対応をきちんと行ってもらいたい。（ファックスで連絡をもらってから緊急で行動したのに「対応が遅い」と苦情があった）
- 塩カル散布機の貸与台数を増やす。経審で除雪機械がカウントされるのは契約者のみであるが、その下で多くの業者が張り付けてある。除雪機械の充実。
- 待機及び作業開始命令が必要と思う・パトロール車（４ＷＤ）が必要でした（今回は個人所有車を利用する）・道路表面のマンホール桝蓋が飛び出ていて、除雪作業に支障をきたす為、補修し舗装面より下げてほしい・雪の量が多いとタイヤショベルが有効なので車両登録等使用できる様配慮願いたい・除雪作業を進めるにあたって一般車両の渋滞対策が必要と思う。
- 今回のような降雪量の時は、除雪機械にもなる重機を所有している業者と特別な路線契約を結び対応した方が迅速に対応できるのではないかと思います。
- 職員も除雪作業をするべきです。パトロールも含めて　危険手当が必要　それにより工事工期が遅れるので工期延長も考慮してほしい
- 市内の山間地ではノーマル車が通行して除雪作業の支障を与える。除雪作業中は、通行規制を取ってもらいたい。
- 契約は建設業協会各支部と結び、支部から各企業と路線ごとに明確にされて請持っているのが現状です。今般２回にわたっての降雪に対し、忠実に守っていない企業があったことは残念に思います。県からの指導を徹底して下さい。
- 今回の積雪は量が多く作業者が不足し、ご迷惑をお掛けしました。今後もなるべく対応出来るように社内体制の強化に努めます
- 今後、当地域で同レベルの積雪を予測に重機を確保しておくのが難しい。自社保有機械への維持及びリースの損料を予測だけで確保するには限度があり、又人材に関しても今回の量だと自宅から来れない状況となり、初動が遅れました。待機した人間も経費がかかり予測レベルでどこまで認められるか分りませんが国・自治体等の補助費用を見込んで頂きたい。
- 除雪する車両が少ないため、時間がかかるため、労働時間が長くなる為、各作業員の負担が大きくなるので、他地域の協力が必要だと思います。・除雪する車両が少ないため、他路線への除雪要請があったが、除雪作業に時間が掛かり、労働時間が長くなり各作業員が日中夜で負担が大きくなり一部対応できなかったが、今後は他地域の協力要請等も必要だと思う。
- 館林・邑楽地区が比較的早期に除雪できていましたが、前橋・高崎・伊勢崎地区が進んでいませんでした。この原因はどこにあるでしょうか？今回のような豪雪を想定することは難しいでしょうが、より迅速な体制を採る必要があろうかと思います。

・ 除雪専用機械の確保
・ 適宜土木事務所より作業の指示を頂き、作業が的確に行えた。
・ 委託路線以外の応援に対して連絡体制等を徹底してほしい。・今回の様な大雪（豪雪）の場合は、会社待機等を考慮してほしい。
・ 公共事業の発注に対して、平準化をし、仕事量を毎月一定化してほしい。・人員の確保と交通規制の整備
・ 県道の除雪は、国道とのアクセスとなっており、国道の除雪が対応不充分の為に、渋滞が発生し県道の除雪等が不能状態であった。そのため、交通量の少ない夜間作業で対応していた。今回の除雪量は機械能力を超えており、道路除雪においても拡幅するにも歩道側、中央分離帯側に盛り上げる程の除雪量であった。数日後、交通２車線確保の除雪後、交差点付近、右折レーンの排雪作業を実施する状況であった。・作業日報の書式を待機、作業等連続作業の場合もあるので改善をお願いします。
・ 除雪作業指示の明言化及び一本化をしてもらいたい。・除雪した雪の処分地が遠く作業が遅れる要因になった。又、場違いな所への処分を要請されるので緊急時の対応が充分に出来なかった。・除雪体制の指示系統が不明で有り担当者が一本化されているのか混乱した。・除雪箇所の優先順で混乱した。県道、市道の差別化があったのではないか。
・ 県、市、建設業者にとって今迄に体験した事のない量の雪が夕方から夜間と降り続いた為除雪作業は夜通し行ったものの、自社の所有する除雪機では能力に限界があり困難を極めた。夜間から雨に変わるとの天気予報もあり油断も多少あったように思う。今回のような積雪量だと所有している重機では歯が立たず業者保有の機械のみで作業を行うのは時間が掛り過ぎてしまう。県や市でも独自の機材の準備をして欲しい。
・ 主要道路では、初回の出動で１車線分を確保し、緊急の車両の通過を可能にします。その後、順次２車線に広げる作業となりますが、その場合一般車両が流入し作業車及び、一般車両とのすり替えが困難で作業が著しく遅延する結果となりました。一般車両、大型貨物の通行規制の方法、規制区間の検討等が必要。
・ 大雪により関越道が通行止となり、スキーシーズンの週末という事も重なり国道１７号渋川～沼田方面下り車線が国道県道共に、スリップ車によりほとんど動かない状態となり、除雪車も渋滞にまきこまれ十分に作業できなかった事に加え、県外車両がカーナビのＶＩＣＳ情報により、除雪中または、除雪不十分な脇道にも多数進入し、こちらも除雪作業に大きく影響したので、できるだけ早く高速道路を開通させる様な体制にして頂ければと思いました。
・ 例年でも、スノープラウ付ドーザーなどは、除雪用のチェーン、スノープラウのエッジなど消耗品の価格が高く、稼働時間割の単価では対応しきれないので消耗品を見直して頂けます様に。
・ 更なる県有除雪機械の増加をお願いしたい。除雪した雪のストック場所の確保地を計画していただきたい。
・ 今回の積雪は異状であり、機械の能力が不足し対応できなかった。豪雪地は対応機械があるので有効であった。
・ 当地区は、伊香保温泉や山間地域を抱えており、特に伊香保温泉は今回のような豪雪の場合、帰宅困難者が生まれる可能性がありいち早く除雪を実行する為に、各地区（４台程度）に除雪トラック並びスノープラウの配備を強く希望致します。　・豪雪予想時は官民一体となり除雪対策室を設置して路線毎の進捗状況を把握しその都度状況により応援部隊を投入したら良いのでは。又、大型ダンプ等

で排雪出来る箇所（河川敷等）の確保をしていただきたい。　・歩道確保の除雪用機械として、小型除雪機も合わせて、配備を望みます。

- １、今回は始めて雪の撤去を行ったが、雪の積込時の交通指導員が不足し、その分除雪作業員が不足した。２、県道等の主要道路の除雪の程度で、全面撤去なのか、車が通れれば良いのか、大型車両がすれちがえれば良いのかの判断が難しい。３、スノープラウでの除雪の限界を越えていた。
- 緊急時通行止時にバリケード、看板等で対応しているが、県外車両がカーナビ・スマートフォンを頼りに進入して来る事があるので日本道路交通情報センターに通行止情報をなるべく早くして欲しい。
- 除雪ドーザーなど緩和申請を取った時に路線図の提出を求められ、提出しました。今回契約路線以外の場所の除雪依頼が土木事務所からあり除雪しましたが、もし事故が発生した場合は、道路法違反になると思います。それに重ねて保険の問題も同時に発生してくると思います。・ロータリー車の増設をお願したいです。（県内全域）・今回は色々な苦情や要望などがあったとは思いますが、何でも業者に押し付ける（無理な事）は、もう少し考えてほしいと思いました。
- 視界をさえぎる降雪は、危険を伴う。幹線道路以外は、交通止の措置も必要だと思う。狭い道路幅の道や、雪崩の危険のある場所は、早期の交通規制が必要である。
- 毎年、小雪の年、豪雪の年など、極端な天候変動に振り回されていますが、その中で今年は小雪の年の中での集中豪雪、まさに災害です。我々建設業は、人も機械も不足の中で、数字には表せない対応まで行っています。百年に一度レベルの災害が頻繁に起こる昨今では、建設業の就労人数、賃金体系のアップが不可欠です。その為には、入札時のアドバンテージや、受注の少ない企業へのアドバンテージなど、年間を通じて安定的な仕事量を確保できるような制度づくりを望みます。
- 県貸与機を増やしていただきたい。・貸与機で町道も除雪作業出来るようにしてほしい。・雪の排雪場所の確保☆・作業時間の見直し昼間作業・現在７－１９・見直し８－１７夜間作業・現在１９－７・見直し１７－８。労働時間の社内規定では、８：００～１７：００（実７時間労働）
- 積雪が１５ｃｍ程度であれば、現在県と契約している当社の除雪ドーザで対応が可能でありますが、それ以上の積雪にはＶＹ２１．５ｍ～２．０ｍクラスのロータリー除雪車が必要となります。人家とＪＲにはさまれた狭隘な路線なので、すべての雪をダンプにて排出しなければならないので、積込みにどうしても小型のロータリーが必要です。
- 排雪箇所が定められていないため、除雪に時間を要した。確保を願いたい。
- 警報等の気象情報を迅速に分かりやすく提供してほしい。・接道する国、県、市町村道を一括で管轄する体制も必要と思う（特に災害時）。・今後作業員不足が懸念される（特に若年者）。また、機械の老朽化で更新も必要であるので、単価アップや除雪体制（固定経費）が維持できる発注方法の改善をお願いしたい。
- 国、県道を早く除雪してもらわないと、出勤することが、出来ない。
- 今回は、降雪量が多すぎてオペレーターが除雪機の置場まで車で行けなくて徒歩で置場までいくことになり、除雪開始まで時間がかかってしまったので除雪機置場等の設置場所（借地等）の検討をお願いしたい。
- 国県市町村道について、隣接する箇所は、各所管での協議調整が必要と思う（今回の様な緊急時には貸与機械の他所管使用も可能とする等）・故障の対応（ある程度の劣化、損傷部品の備蓄等）・除雪路線の優先順位の検討・県民への理解と協力

のアピールや情報発信方法の検討

- 通常除雪は勿論、異常降雪時や台風・ゲリラ豪雨による土砂流出等の緊急時に対応できるよう、各地域の災害協定を結んでいる建設会社が自社で保有できるよう、国土交通省で実施している建設機械補助の制度を自治体だけでなく、各地域を守る建設会社にも導入して下さい（工事でも使用できるホィールローダーの７ｔまたは８ｔ級)。このクラスの機械が拡充されれば、災害・除雪対応が迅速に対応できると思います。また、このクラスの機械に乗り慣れていれば、これより大きいサイズの除雪ドーザーの運転でも操縦の適応はかなり早いと思います。よろしくお願い致します。
- 除雪機械の整備に関して予算を使っていただきたい。車検整備等を入札にするのも良いが、「動く機械」と「働く機械」は違う。きっちり整備して作業するのに支障が無い様にしていただきたい。除雪の支障となるマンホールや轍についても整備していただきたい。県の貸与機械が市町村の道路除雪に行ける様に連携していただきたい。
- ロータリー除雪車、大型ドーザを（豪雪の時）貸与できるようお願いしたい。狭い道は排雪しないとならないのでロータリー除雪車プラスダンプトラック（４ｔ）をお願いしたい。
- 県道等の除雪が間に合っていないと感じた為、近隣の業者に協力を仰ぎ、担当路線を細分別して、一社の負担を軽くする対策が必要
- 除雪を行う業社を増した方がよい
- 除雪作業中住民から苦情をいわれる。○自宅前の雪を道路に出される○沼田地区の病院から救急車が入れないので駐車場の除雪をとの電話をもらったが、病院も除雪の依頼体制を普段から作るべきでは？
- 国道沿線で速やかに除雪対応しても対抗車とすれちがいができないのは困る。
- １、除雪機械の固定費を上げて欲しい。２、除雪機械を購入する時に補助金を出して欲しい。３、除雪機械の消耗品（タイヤチェーン、排土板ブレード等）の購入に対して補助金を出して欲しい。４、除雪要員の訓練、育成に補助金を出して欲しい
- オペレーターが除雪機械の所まですみやかに行く事ができずに、除雪作業が午後になってしまい、交通がマヒした。３０ｃｍ以上降るような予報が出たら、歩いて除雪車両に行ける程度のところへ、用意しておかないとどうにもならない。燃料は常に半分以上入れておく。
- 除雪した雪のストックヤードの確保
- 現場の状況を直視・把握し命令系統を統一して欲しい。
- 観測史上最大の積雪量の為、県や国交省とも現地にて適切な指示の下、業者側も昼夜と休みなく作業を行ない、その指示に応えて来ましたが、不明確な指示及び強引な指示等もあり、除雪機械の入れ替えや移動に要する時間が多く出て稼働率が低下した結果となった。その為疲労もピークとなり危険な事が起こる様な感じもしましたが、なんとか事故もなく無事終了して良かったと思います。したがって今後はこのような想定外の豪雪に対し、しっかりした計画の元、事前の合同打合せを充分に行ない、組織を系統的に動かしてほしい。
- 県からの要望が多すぎて対応しきれない部分が多々あった。除雪作業最優先で行なっていたため、自社の工事に手がつけられず工程的にきびしく従業員への負担が大きくなってしまった。・県からの指示が統一されていなかった。・窓口を一本化してもらいたい。・次回からはこのような豪雪対策に関して可能性がゼロではないかぎり、除雪車の導入、要請方法、各路線の分担方法、除雪体系を検討してい

ただきたい。

- 今回の豪雪の後、１７，１８日と前橋、高崎、藤岡、太田等仕事でまわりましたが、地区、市町村によって除雪が出来ている所まったく出来ていない所などまちまちで、高崎などは１８日にはよく除雪されていましたが、前橋はひどいものでした。藤岡も結構除雪されていました。大きい道路は出来るだけ早いうちに県からの指示をお願いします。
- 担当路線を率先して除雪していたが、県、市、町村からの指示が錯綜し効率の悪い除雪となったので、共同の対策本部を設置して指示命令の一本化をされるようお願いしたい。又、県、市町村共、一般住民の苦情や要望を聞き過ぎるため、業者として対応がとれない。
- 県・市町村との窓口の一本化による指示。
- 除雪作業のマニュアルを作成しておく。１）優先道路（国道→県道→市町村道）２）除雪状況（１車線を確保する事を優先し資機材人員の移動を可能にする。３）対策本部を１つにして状況の把握と作業方針を決定指示する。担当区域会社の枠を外して行なう。
- 人員、機材ともに不足が否めませんでした。長期に渡る公共事業の縮減が新たな設備投資や人材確保の障害となっています。これからの需要を見据えた原材料の高騰や人件費の上昇によりますます人員機材の拡充が難しくなると思います。国や県が機材を確保し除雪作業については地域間での融通が望ましいと思います。
- 除雪した雪のストックヤードの確保
- 対面通行の主要幹線の場合、除雪時に路肩に雪がたまってしまい、２車線確保する事が困難でした。そのため大型車が進入した場合は大渋滞を引き起こしました。このような路線では集雪スペースの整備が必要と考えます。
- 今回の様な大雪がいつ発生するかわからない今、ロータリー除雪車の必要性を痛切に感じた。今後、県としてロータリー除雪の貸出を増やしてほしい。特に山間部を受持っている会社には早めにお願いしたい。・今回の大雪を踏まえて、住宅地の多い地域の雪をどこに排出するのか県と業界で一緒に考えていきたい。
- 当社は重機を持っていない為、手作業ではムリがある　直前にリース会社にＴＥＬしても重機がなく困った。重機が無いのに何回も電話（出動要請）があり困りました。
- 除雪範囲の見直し検討が必要　オペレーターの育成（大型特殊免許）の取得（助成金等）　委託契約の見直し（除雪機械を保有しているか）
- 役所に依頼が殺到するのはわかるが今回の様に大量に降るときは依頼系統を一元化していただきたい
- 放置車両の取り扱い・冬期前に道路沿線の伐採・屋根からの落雪が道路へ落ちないよう建物の位置等の規制の見直し・各業者の担当路線の見直し（機械除雪→グレーダー、ショベル等と簡易除雪等→砂まき、ＢＨによる排雪に分けたらどうか？）・入札参加申請時での担当路線（距離）の評価をなくしてほしい。除雪対応できる機械及び直営労務がないのに、この評価がある為粗害しているのではないか？
- 大型の除雪ドーザの貸与をお願いしたい
- 積雪厚が５０ｃｍ程度までは、グレーダー除雪対応可能それ以上は無理ではないか。ロータリー車が効果的であったが台数が少ない。人員確保・交代要員がいない。オペレーターは家庭を犠牲にしていることを考えてほしい（人材がいなくなる）。最近は仕事量が多いが何年か前は倒産する会社があり会社が少ない。この豪雪にもかかわらず出入口に雪があり…という話があったが受け入れてほしくない。

会社（企業）に任せたままで、もっとパトロール等で現場を把握してほしい。
- 除雪機械の、地域配置を考えるべきである。道路管理で、情報提供や状況把握が遅いようであった。
- ロータリー除雪車の不足が露呈された。・除雪車を貸し借りする場合事故があった時の保険の問題故障があった場合の責任の問題燃料の問題。・除雪を応援する場合（ロータリー車）アスカーブ縁石、U字溝に蓋が有・無、マンホール他空起物等又雪の排雪方向等把握出来ていない道路では対応が難しい問題。
- ①初動活動に当った人員は自宅に帰る事も出来ず、３０時間を超える労働と待機の上、雪崩による緊急作業を要したりしたため、機械のアワメーターやタコグラフの記録にとらわれる事なく、稼働に反映できるようにして頂きたい。②除雪途中での写真の提出や後日の予定等をメールだけで伝えられても除雪作業に追われて対処しきれないので、もう少し対応を考えて貰いたい。③除雪した雪が凍り４～５日位してから、役所から民間の苦情の連絡があり、その処理までしなければならない等があるので、除雪に対する理解を県や町は住民に周知と理解をして頂きたいと共に民間からの対応を行ってほしい。④もう少し現場を把握して頂きたい。
- １．連絡体系の強化をお願いします。（出先機関と連携を強化して頂きたいです）
  ２．今回の豪雪を参考に、除雪機械配備の見直し、増設等を再検討願います。
- 当社所有の機械（グレーダー）では２０～３０ｃｍの除雪能力しかなく、除雪機械を貸与願いたい.
- 以前から要望してあった除雪ロータリー車を何とか導入して頂きたい。
- １．積雪が予想される場合、作業員の待機、パトロール巡回の強化。
- 通常時の積雪であれば十分対応出来たが、今回の豪雪は災害として見て頂きたい。各現場を休工にして除雪作業に対応している。今回の大雪と、除雪作業の為、現場の工程は３０日以上の遅れが生じると思われます。工期の延長をお願い致します。
- ロータリー除雪車の増車・除雪ドーザーの入れ替え（機種が古く故障が多い）・緊急時の燃料確保（今回軽油が不足した）・除雪車の保険関係今回の様な機械の貸し借り時、保険内容により無保険状態になる事があるので、貸与車の保険内容を統一するか、県で加入してほしい。・除雪ステーションがほしい.・今回の様な通行止めが多発した時の迂回道、緊急道確保のため上信自動車道の早き開通
- ◎積雪量が多い場合グレーダー及び除雪トラックでは、雪がかけないので、ドーザーで粗方除雪した後に、改めてグレーダーや除雪トラックで仕上げなくてはならなかったので時間がかかってしまった。積雪量に応じた機械配備をお願いします。◎地元対応（苦情）について、現場状況の確認をし、状況を把握したうえで連絡をいただきたい。◎除雪対応の連絡方法を検討していただきたい。
- 委託契約していない建設機械等も緊急の場合は、直ぐに使用できる対応策があればもっと迅速に除雪が進められたと思う。実際、今回の豪雪では作業前・作業中・作業後の写真撮影は、無理でした。除雪トラックも７ｔＤを貸与されていますが前に進むことも困難な状況でした。一度、止まってしまえば前進できない。作業員も恐怖と闘いながらの除雪でした。
- 作業員を確保するために、発注量の確保と平準化。◦豪雪時の対応のマニュアル化（段階を分けて区分する。）除雪により物をこわしてしまった場合はどうするか。
- 県有除雪機械の増車
- 山間部の峠等は除雪が間に合わない場合は通行止の措置を早目に決断してほしい。
- ①ロータリー除雪車等の、貸与の充実　②グレーダー・スノウプラウ用車輌・ロ

ーダー等のタイヤチェーンの貸与又は補助　③グレーダー・ローダー等を使用する工事が無いのでオペレーターの不足と維持の負担が出来ない

- 各担当路線の除雪区間の見直し・再検討（距離が長すぎて対応が遅れる）　・歩道部に関しては地元・学校・市民等に協力をお願いしてほしい。（業者だけでは対応しきれない）
- 建設業の重要性を県民に広く周知してもらい、県民の理解と協力を得たい。　・作業者が高齢化しているため、若い人に携わってもらえるよう配慮してもらいたい。
- 所属管内境の道路（急勾配の道路が多い）での通行止の処置（実際に２／１６等は一般車輌の立往生で除雪作業に支障が生じた）　・市街地等の住民のクレームを１００％聞きいれすぎていませんか？（多少の幅員の減少等はやむをえない）
- ロータリー除雪車を下仁田地域にも配置していただきたい。建設作業員の高齢化が進んでいる為、除雪作業機械オペレーター不足が深刻になっている　除雪機械等を運転するのに必要な、大型特殊・大型自動車運転免許取得について補助していただきたい。
- 除雪要請は、県、町、村からそれぞれあり、どれを優先すべきなのか混乱する。命令指揮系統の一本化を希望する。また進捗状況の問い合わせも複数入り、同じ報告を繰り返す場面が多々あり、時間のロス、作業に支障を来した。報告系統も一本化して欲しい。今後に備えて、除雪機械（ロータリー除雪車、除雪ドーザー等）は各土木事務所に配備、あるいは豪雪地区の配備台数を増して、臨機応変、各地へ出動可能な体制を整えて欲しい。
- 今回は２度に渡り大雪となりましたが、場所によっては早目の通行規制が必要であったと思われます。
- グレーダー等、今回の積雪量では対応できなかった。各事務所で２台程度ロータリー車を所有した方がよいのではないか。除雪、災害に対応できるように、建設会社にもっと体力をつける必要がある。（利益の上がる仕事を増す）
- ロータリ除雪車を含む貸与機械の充実・１３：００頃に除雪担当者を集め、明日の予定等の会議を開く（急なロータリ除雪車を投入されると全体の予定が組み直しになる）（土木・市町村・業者）除雪の優先順位を決める・一般の人の要望に、現況説明をして対応して欲しい（なんでも受けて業者に押しつけるのはやめてもらいたい）・現場確認を県・市町・村もしてもらいたい（業者も人数に限りがあるので、対応出来ない）
- 今回の豪雪に対しニュース等で高速道路の閉鎖を今後は早めに行なう様に見直しをすると言っておりましたが、一般道路へ流れる車の量が、多くなることで、交通渋滞が加速されるのではないでしょうか。一般道におきましてもノーマルタイヤで動きが取れない車、操作ミスで雪に埋もれる車などが、一台でも出ればそく渋滞という状況の中へさらに車両台数を増加させる事は、結果として除雪に大変支障をきたすことになるのでもっと検討していただきたい。
- 継続安定した受注確保がなければ、機械及び人材の長期保有及び保管は、出来ない為安定した工事発注を願います。
- 当初の降雪時の緊急時分担範囲は、延長約１２ｋｍあるので今回の様に多量の降雪があった場合は、除雪が間に合いません。今回の様な対応はまれでしょうが、ピーク時に合わせた対応を取っている訳ではないので、そのところは御理解願います。今後も早い対応には心掛ける様にします。除雪や凍結の対応を業社の自主性にまかせるところがあるが、道路管理者のパトロールも強化して、積雪箇所を早期把握することが必要と思われる　一日一般車が立ち往生して、渋滞の原因に

なってしまったこと。

- 市街地の除雪は、除雪機と雪運搬車両の１セット考え除雪した雪は直ぐに運び出す事が肝要である。そのためにも事前に雪の捨場を確保しておく必要がある。何れにしても疲弊した業界に力をつけるためにも、公共事業費の安定的な確保を望みたい。
- 当社はローダでの除雪のため積雪量が多い場合対応に十分とは言えない。時間的に理解をいただきたい。除雪機械の貸出をお願いしたい。※排水性舗装は悪路になりやすい。

項目２　自社の除雪作業の工夫・改善・効果のあった点

- 除雪において、重機・作業員の移動時間を検討し、効率の良い除雪順序を決定した。民間・公共施設の除雪において、緊急性を考慮しつつ、要望に応えた。
- ＢＣＰを取得している為、社員との連絡体制は整っていたので、人員の確認は良かった。・２月１７日には、ほとんどの社員が出社できたので、大雪対策本部をたちあげ、優先順位を決めて、対応する事ができた。
- 社長をはじめ、率先して作業をして頂いたため、近隣から感謝されました。
- １５日は作業員が大雪の為、出社出来なかった
- 自動車の退避場の確保・交差点部での排雪による交通事故防止・パトロールによる早期除雪箇所の確認・通学路の早期確保（一部区間ではあるが！）
- 雪で立ち往生している車があって除雪するのに時間が掛る場所は飛ばして先に出来る所から除雪をしたのは効果的であったと思う。いち早く降雪に強いランドクルーザーを持つ社員がグレーダーのオペレーターや会社近くの社員の自宅へ迎えに行った為、早期の除雪体制ができた。
- 除雪窓口は３人とし、本社で一括してまとめた。(今までは１人で対応できた。)
- 道路の渋滞情報、給油のやりとりは携帯電話により情報キャッチした。機械が方面、作業員を把握しロスの少ない様配慮した。
- 今回は工夫の余地がなかったので次回からは台数を増やして対応したい
- 今回は雪の量が大変多くトラクターショベルの活用が大きく効果を上げたと思われます。
- 豪雪により、世話役や作業員が自宅から出られなく、会社に来るのに一日以上かかってしまった者が多くいた。今度は会社待機を行い早急に対応できる様にしていきたいと思います。しかし現在の所会社事務所には、待機人員がリラックスして待機できる場所がないので、今後の検討事項にしていきたいと思います。待機していなければならないのでなく、待機しようと思える環境を作っていきたいです。
- 積雪量が多く、グレーダーで対応できずバックホウ・ホイールローダーの使用は、時間はかかるが効果的であった。
- ホイールローダを１台増車した。
- 降雪量が多く除雪グレーダのみでは対応できなかったため、手持ちの機械で何が出来るかを検討してバックホウを併用することにした。会社近くに消防署があるため、緊急車両が出動できるようにすることを最優先に行った。担当者を決めて県・市町村からの要請に対し優先順位を打ち合わせて作業した。除雪がどこで行われているかが理解できたため、効率よく指示ができた。社員も使命感を持って対応したと思う。

- 積雪の少ない時期から圧雪を行っていた路線は車線の確保が出来、隔雪も早かった。ブルドーザーが有効だった。
- 降積雪の可能性を予測して作業員自宅（榛名町）に重機を待機させたため、自宅前市道から県道まで除雪を行えた。
- 大雪警報前より体制を取り、準備していました。
- 改善点：除雪機械の導入・効果：除雪した雪を片付けさえすれば雪はなくなる。
- 除雪した雪の持って行く場所がなかったので、自社置場をいち早く除雪し対応した。
- ホイルローダーバケット部に自社加工で除雪ブレードを製作しグレーダー機能を一部もたせ、除雪スピード効率を上げた。早朝エンカル散布業務が連日続く場合は、作業員を交互に交替させ、連日作業とならない様にする。（日中の作業に支障がでる為）
- ※住宅地図を貼り合わせた長さ３ｍ程の路線図を作り、除雪した箇所を塗りつぶして進捗状況を共有できたのは良かった。また、役所からの「〇〇町の△△さん宅前」と言う指示に住宅地図は活用でき便利であった。
- 当社は、今年度より群馬県の除雪担当路線が割り当てられたので、ある程度の準備が出来ていた（除雪用の機械の確保と社員への周知）ので、割とスムーズに行えたと思うが、それでも施工能力の限界だった。
- 今回の雪は量が多すぎて、押しきれなかったのでバックホーで積み出しをした。
- ２台のグレーダーを除雪に使い、先頭のグレーダーで除雪した雪の後にもう１台のグレーダーが拡幡しながら、入口に堆積した雪を除去して施工をすると苦情は少なくなりましたが、時間が掛かり、他の路線への移動が遅れる事になるので途中で別行動で施工をしました。
- １４日の除雪の最中から主要道路の除雪を実施していたことと、１５日に日付が変わった直後から除雪を実施したため、雪の量の割には順調に除雪作業が行なえた。・住宅が集中している地域は、住民の除雪（玄関前等）が始まる前にほぼ終了していたため、大きな苦情はなかった。
- グレーダを普段運転しなかった者が必要に迫られ運転できるようになった。
- リース会社にタイヤショベルのリース希望を申し入れましたが、機械に全く余裕がなく、タイヤショベルでの作業からバックホウでの作業に切り換えました。今後機械の確保に改善が必要
- グレーダーは、２台でかいていくほうが良い。しかしグレーダーが不足しているので、なかなかできない。雪が多すぎて、ショベルでしか対応できないところがあった。
- 除雪前から社員を本社に待機させていた為素早い除雪対応が出来た・降雪量が想像以上に多かったので主要道路の対応におわれ生活道路等の除雪が若干遅れてしまった・重機のトラブルが多発したので素早いメンテナンスの対応力が必要と感じた
- 人員の確保の検討
- １路線を復数の機械で対応した。（副員の広い路線）アイスバーンの所は塩カルを散布してからの除雪
- 歩道の雪を手動式除雪機を自社で保有し除雪しました。１回通過すると１ｍくらいの通り道が確保できたので、今回の雪ではかなり負担を軽減できました。
- 人手確保が難しい。
- 事前に昨年からこのような事態を予測して人員：協力業者要請、使用機械：タイヤシャベル１台（昨年の暮れから予約しておき本社へ待機、確保しておいた）降

る予報前日に重機：ダンプトラックのタイヤにチェーンを履いといてスムーズにスタート・作業できる体制で準備しておいた。

- 特に改善すべき点が多々あった。自宅から会社へ出勤出来ない状況の為作業員の確保が出来なかった。一般道路の渋滞等が発生し重機の移動に相当な時間が掛ってしまった。
- 建設業の特性を生かし、土工事の要領で建設機械を操作し、大量の積雪を排除して、市民生活を確保できた点が効果として上げられる。
- 豪雪時には、３人の担当者を泊りで待機させて、すぐに対処できるようにした。
- 徒歩で出勤できた社員が数名いたので、役員を中心に会社周辺から除雪を始め、普段お世話になっている地元町内を中心に進めた。今回は指定されている除雪場所へは、なかなかたどり着けなかったのは反省。除雪しながらカーポート内の車の脱出等、臨機応変に作業し、困っている人の対応を優先的に行った。
- 多く降る予報だったので前日より作業員を会社に泊まらせて待機させ、早急に対応できるようにしたが、予想以上の量だったので、思ったより時間がかかってしまった。
- 今回の豪雪対策としては、天気予報等の情報をふまえ前日（２／１４）から除雪機械、車輌等へのチェーンの装着、及びすぐに出られるような車輌の配置等が効果のあった点と思われます。
- 受領していた凍結防止材の量では担当箇所の全てに十分な量を撒布することは無理だったため、斜面の下・頂上付近、交差点付近等に集中して撒くことで、事故の抑制を図った。
- 積雪当初は一般交通車両が除雪作業の妨げとなっていた為、当社は夜間をメインにし除雪作業を行った。
- 除雪作業員を確保するにあたり４ＷＤ車で自宅まで迎えに行き必要人員を集め作業開始した・グレーダーと先導車の連絡にトランシーバーを利用しコミュニケーションを計った・オペレーターを復数確保し昼間と夜間の作業にあたり長時間の作業を維持した・排雪場所を自社駐車場に確保し作業を行なった。
- 除雪作業に伴う重機が必要と思われ、早目に手配・準備して有効活用できた。
- 時期が年度末だったこともありリース業者に除雪対応できる重機がなく確保できなかった　今後は早いうちに段取りを考えたい
- リース重機を早期から確保していれば良かった
- 除雪機械を２台（グレーダー、タイヤショベル）にて行ない、効率良くできた。
- ２月１４、１５日の記録的大雪には、ゴム付ブルドーザ、四駆タイヤショベル使用に効果があった。・除雪待機命令があり、１人は２／１４夜から会社待機　大雪のため自宅から会社まで徒歩で待機した人が６名・２班体制で実施し、請持ち路線は不十分であったが道路通行マヒにはならずに済んだ
- 会社で待機できた人は残って頂き、早期連絡の対応が出来た。会社内に民間客先を含め、対策本部を組織し対応出来た。
- 県道、市道を最優先に除雪を行ったため、民間対応が遅れクレームとなった。今後は、自社のみにかかわらず協力業者にも応援してもらい（作業員の追加）官庁、民間部門に分けて対応処理が必要と思いました。・民間対応が遅れ、見積りした工事を”対応の遅れ”を理由に別業者へ代えられた。上記のような事が今後ないよう官庁道路、民間部門と分けた対応をする事が必要。
- 除雪作業中の安全確保（誘導員をつける）
- 当社は天気予報の後、即機械・人員の手配を行いましたので大きな障害はありませんでしたが、それでも雪量が多く、想定以上の時間を要しました。

・ 除雪車（除雪専用機械）の所持が無いため作業が困難だった。
・ 担当路線以外でも重機の有る付近の除雪をした。
・ １．主要道から１車線除雪した為、長い距離を短時間で完了した。２．次に待避所を作れる所に作って行った。３．次２車線を確保した。４．日影部分等凍結部分が多かった為、その部分を重点的に塩カルを多めに砂にまぜ散布した。
・ 連絡体制の確保と充実　除雪機械の確保と対応策の検討
・ 豪雪のため土曜日は動けず、初動に遅れが出たことが今後の改善点・除雪の進まない市道などを除雪して地域に貢献できた・小学校、中学校から要請をうけ除雪したが、土建業に従事するものとして自尊心を高められた。
・ 今回の除雪に対しては、自社の機械でほぼ対応出来た。・作業員の確保は昼夜連日となったが、交代制とした。機械はフル回転であった。
・ 大雪を見越した事により前日より会社に宿泊し作業体制を整えた。・事前に重機、作業道具を点検した事により、支障が無く除雪することが出来た。
・ 日頃より除雪時の体制も整えて、準備も行って来たが今回は雪の量が多過ぎ出社出来ない社員も多くこれから先の作業に多くの課題があると思う。このような積雪量が毎年降るとすると重機等の改良や導入等検討しなくてはと考えます。
・ 除雪に係わる作業員は機械基地の近くで仮眠させた。
・ 積雪量が多すぎた為、作業効率と安全性を考え、通行止にして作業したところ、スムーズに作業が進捗して、早めに安全通行できるようになった路線があった。
・ 所属管内でも自社の地区は例年でも雪の量が多い為、スノープラウ付ドーザーを２機種保有していたので、１m以上の降雪にも対応できた。
・ 本年契約機械の他に自社所有の除雪対応可能な機械を緊急対応として活用した支援体制を作ってほしい　また除雪機械の改善をするための支援をお願いしたい。
・ 一旦は車道確保に専念しましたが、歩道通行可とする為に人力では歯が立たない箇所もあり、超ミニバックホウ（スコッピー）を投入し学童等が通学出来る程度の歩道を確保する事が出来ました。
・ 作業機械、人員不足のため地元協力業社へ重機械、オペレーターを依頼し対応した。
・ 夜中より早目に除雪を継続してやりましたが、今回降雪量が異常に多かった為、何度掻いても除雪ドーザーでは、雪を退ける事が出来ず、ロータリー車が無ければ雪を飛ばして車線の確保をするのが満足に出来ませんでした。今後は、ロータリー車の配置を増やしてほしいです。それにより交通渋滞や通行不可能な場所も、かなり早期に解消出来たと思います。・エッジの買い置きが足りませんでした。注文しても間に合わなかった除雪車は、古いエッジを溶接して対応しました。・歩道用の小型ロータリー式除雪機が凄く活躍しました。
・ 降雪がなく、除雪出動のなかった時でも、１日１回は、エンジンを始動させ、点検をしていたので、豪雪の時、すぐに動く事ができた。年数の経過した機械なので点検整備は必要だと思う。
・ 土木部門担当だけでなく、建築部門、営業部門、総務部門など社員総動員で、人力除雪などを行いました。また、スタックして動けなくなった車両を人力で後押しして救出したり、夜間の排雪作業などで地域の交通への配慮を行いました。その他にも地域住民と一体での人力除雪などを行いました。
・ 改善としては、危険個所及び構造物等のスノーポール設置の数が不足していた。・排雪場所の確保
・ まずは外側線までの除雪を最優先させた事。雪を数ヵ所に集めて、一般車両の通行を可能にしておいてから、次のダンプにての排雪作業をした事。又、その状態

を確保しながら、側溝及びカードレールまでの二次拡幅の作業に移行した事。いずれもも、道路巾が狭いので除雪作業で交通渋滞を起こしてしまうと、作業効率が低下してしまうのを避ける事ができた。

- 北部で降雪の多い地域の除雪要員を、今回のような南部の降雪地域へ配置できたことが評価できる。
- パトロールを密に行い、走行が困難な箇所を優先して対応した。
- 高速道路が通行止めになった事により一般道の交通量が増え降雪の影響もあり大渋滞が発生し、除雪作業も遅れたが、警察が通行止を行って除雪作業を優先してくれた場所もあったので、通行を早期に円滑にする為には警察による通行止はかなりの効果がありました。
- 手押型、小型ロータリー除雪機の使用（今回の様な降雪量では人力での除雪にかなりの人員が必要となるが、少人数で歩道の確保ができた）・小型バックホウの使用（狭少な道路の除雪について早期に使用した）
- 今回の豪雪の中で自社の除雪作業の工夫・改善・効果のあった点はありません。除雪はそれを行う回数により、除雪の出来・不出来が決まります。担当路線の除雪を１回よりも２回行う方が路面はきれいになり、３回、４回と行えば、より通行しやすい快適な路面状態となるだけです。そして、降雪量による初期除雪の開始時刻と降雪にあわせた次の除雪開始時刻を決めておけば、対応できます。いままでもそうでしたから
- 除雪車両が故障した場合、代替えの機械を余裕があれば準備していきたい。
- 時間はかかったが通常通り行った。
- 積雪の量が多かったため雪の搬出が困窮だったので、ＢＨ等を使用し雪の運搬・搬出をした。他地元要望もいつも以上に多い中個々に対応した
- 迅速な対応を徹底する。
- 雪により出社が困難な社員もいたが、重機を各オペレーターの自宅に配備しておいたのですぐに出動できた◦会社まで歩いで出社できる社員がいるのには助かった。
- 道路側の雪はダンプでの運搬が必要なので雪出しを早くにすると交通のさまたげにならない
- 町道の除雪が間に合わないため車の出入口及び県道取付部等の除雪について自主的に活動し地元から一定の評価が得られた。
- 温泉街で普段から道路幅が狭く今回の大雪の除雪作業は、難航しました。しかし、除雪作業中のため車での移動を控えていただくようにホテル旅館等にお願いいたしました結果、交通の量が少なく除雪作業が、進みました。地元の方々の協力に感謝しています。
- 経営状態が苦しい中、無理やり借金をして暮れに新しい除雪機械を導入（増車）しておいたので大辺助かった。
- この様な想定外の大雪になるとは予想しなかった中、振り返ると２／１４（金）に各オペレーターには重機等を自宅に持ち帰って準備をしたので、翌２／１５（土）の早朝より除雪対応が出来た。中には車も出せない中、素早く対応できた事は役所からも高い評価を頂き地域貢献できた。
- 除雪車のレンタルによって作業時間の短縮が大幅に出来た。除雪車の能力を超えている場所はバックホー除雪車、タイヤシャベルといった機械の組合せの工夫をし、業時間の短縮が大幅に出来た。改善点として除雪車作業中や除雪機械作業中に先導車と後方支援車を配置し、一般車両・第３者への注意を促しながら作業すれば、もう少し作業効率アップ出来たのかも知れない（作業人員を１路線に対し

て５人程度に出来れば)。
- 早朝から豪雪業務の中、社員が長時間をかけ全員徒歩で出社したため、早朝からの除雪作業が可能となった。又、翌日以降の作業に備え、近隣の旅館を確保し、社員を宿泊させて対応したこと。
- 除雪機械をフルに使用する為運転者を２班にし昼夜で作業した。
- 当社は除雪機械の手持ちがない為、地域に迷惑をかけたと思う。バックホー、ダンプによる待避所つくり、排雪作業はそれなりに行なったと思う。
- 今回の大雪にはグレーダー及びスノープラウでは到底対応できない　ロータリー除雪車、除雪トーザを早めに県から借入れ、次の大雪には一日でも早い復旧を目指していきたい
- 新雪のうちが扱いも楽なので初期のうちに作業する方が楽ですが人員の確保も難しい点もあった。
- ２／１４午後より２４時間体制の２班で機械除雪を実施。・４車線確保に伴い、待避所を設けながら除雪を実施。・降雪量が多く圧雪されたので押しブル（３ｔ）を投入した。
- 契約路線を確保するのが精一杯である・排雪するのにロータリー車が効果ある.・大型ショベル・グレーダーの併用で処理した・オペレーターの要請が必要.（人員不足)・除雪作業. 体制の改善が必要と考えた.
- 早期から除雪作業を開始した.・国道を優先で道路を拡幅した.
- ①作業箇所の優先順位を決め、当社におけるすべてのＢＨ・ダンプ・人員を配置し、早朝から深夜まで行い排雪に関して早めの対処できた。②タイヤショベルを利用する事により、除雪トラック等で処理出来ない所について対応した。
- 除雪担当区域の時間単位積雪状況の監視及びパトロール。
- 路線に優先順位をつけて除雪を行った。
- ＧＰＳ携帯による情報交換が円滑にすすみ、除雪作業状態の把握ができた。
- 雪の場合のドーザ（バケット付の物）で雪を除け先に進め、除雪トラックグレーダーでは、石積及びガードレールがあり除雪を進めることができないので、一度バケット付の物でかいてから、仕上げに除雪トラックとグレーダーを使用した。
- 積雪の多い場合は、早めに除雪を行う事により路面の圧雪も少なくなる。若しくは、塩カルの散布をしておく。
- 連絡体制を事前にきちんと組んでいたのでスムーズにいった。
- やはり長年の工事の減少等により、自社で保有する一般機械が減少していく中で緊急時の対応は遅くなります。小型バックホウ、小型ヤイヤシャベル、ダンプトラック等の保有数を増加できるよう発注量の長期安定化等をお願いしたい。　・自社従業員等も大雪に対する認識が甘く、通勤車等チェーンを用意しておらず２／１７ころも通勤できない従業員もいた。災害に対する認識を高めたい。
- 今年度、除雪作業を主としたショベルローダ（キャビン付）を導入した為除雪時や夜間でも除雪作業がスムーズに行えるようになった
- 除雪出動のタイミングは各業者に一任されているが、各路線の奥へ除雪に入っても、その手前の路線が除雪していなければ、奥からの作業者が戻れなくなる事態も生じる。今回、各業者との連携も必要だと痛感した。いつもの除雪作業のように、あまり積もらないうちにと判断して、降雪中に出動してしまい、想定外の降雪で身動きが取れなくなり、切迫した状況に陥った。今後は出動タイミングは慎重に計りたい
- 今回の大雪は想定をはるかに越える積雪量であった。例年弊社で計画していた除雪機械では対応出来なかったが、協力業者の全面的な応援、除雪機械の効率的な

配置計画により、無事依頼を受けた箇所（県道・市道・民間店舗・工場）の除雪を終える事が出来た。

- 除雪機械（ローダー）に前もってチェーンを装着してあった。・営業、一般社員も含め顧客の除雪要請に対応した。
- 降雪量が多すぎて、最初からグレーダー等除雪機械が動けず、当社ではまずバックホーである程度除雪を行い、その後、グレーダー等除雪機械で除雪を行い、車道の確保ができた。ショベルローダーで、地道に排雪を行いながら、車道の確保を行った。
- リース機械でチェーンを用意して対応した。・ＢＨも投入した。・機械に限りがあるので、昼夜２交代で２４時間移動させた。
- 国道１２２号線は下りより上り車線の渋滞が激しくほとんど動かない状態でした（放置車両が一番の原因）。ある程度動いていた下り車線を優先して除雪をし、また１２２号線と交差する路線を優先して除雪した結果、下り車線はノロノロではあったが車は動いていたので渋滞の緩和に多少役立ったと思われます。また塩カル散布も雪が降りつづけている場合はあまり効果がないと思っていたが、散布量を多くすると融雪に効果があり、車の流れが良くなったと思います。
- 大雪の予見にて段取の基前日に準備が出来た事。
- 今年の様に多量の雪が降った時は早めに塩カル散布をして積雪量を少なくする様にした方が、後の処理が楽になると思います。ただし、今年の様に多量に降雪があるのはまれであるので塩カルの保管を考えないとならないと思います　・民間企業、店舗の駐車場の除雪依頼が開店時間指定で来るが機械、労力には、かぎりがあり要望に沿えるようにローテーションを組んで早出で行い遅れて最小限にする工夫を行った。　・道路除雪が遅れたため、機械の回送に時間がかかり作業開始が遅れた。自治体の対応に改善が必要と思う。
- 今回の雪対策において、幹線道路の除雪作業では、パトロール等でこまめに状況を把握し、早目の除雪作業（複数回）により通行に支障を期たすことが生じなかった。
- 警察署前の除雪に際し、誘導を警察官に行っていただいた。積雪量が多い場合、警察と協力するとスムーズに作業が可能。
- 建設用機械を除雪時に使えるように改造しなくてはならない。

項目３　その他

- 道路管理者の緊急（除雪）体制の強化が必要。（人・物・機械等）
- 建設業に対するマスコミや住民意識が向上するようにしていきたいと思います。
- 弊社の除雪区間の次の会社の作業状況（対応がどの程度か）知りたい。立往生した車両があり、スムーズに作業が進まなかった。
- 重機の有資格者を増やす事が大切だと思いました。
- 重機等をほとんどリースでまかなっているので、夜間休日等はリース会社が休みの為、対応が出来ない。
- グレーダーについて除雪先を廻りました。たくさんの人から「ありがとうやご苦労様」といった言葉をかけられましたが、本業の際にも、こういった言葉が、いただけるような仕事をしなければと思いました。
- 指示系統が整っていないと思った。（二重の指示がきたり、同時に別の指示があったりしたので）民官の駐車場等の除雪を市役所から紹介されたとの連絡が複数あ

り、市に問い合せると道路など公的機関が先と言われ、お断りしました。除雪対応しているのだから市で対応して頂きたい。

- 天気予報の的中確立が高い現在、予報をもとに会社待機を義務化。（行政の指導で経費も計上）除雪体制を行政と確立。
- 除雪作業中に一般車両が少しずつ増えて、またすべって動かなくなる車もありました。その為効率が悪くはかどりませんでした。ある区間を通行止めに出来れば効率が上がると思います。雪の量にもよりますが、雪の搬出場所をあらかじめ設定しておく必要を感じました。県・市の連携を日ごろよりもう少し良くしておく必要を感じました。通常の量の雪であればそれほど問題でないが、今回の様な量だと沿道の住民が道路に雪を出して交通に支障をきたしている所が多く見られました。
- 工夫ではありませんが、提案があります。グレーダーで除雪作業を行う場合、店舗、住宅入口等に固まりができてしまい、後方からショベルを用いて人力除雪を行なっているが、人力作業に時間がかかり、除雪作業が思うように進まない。出入口の苦情等も言われる。県民、市民の協力をお願いしたい。こちらも、初期除雪に心がけたいので、気持もわかるがもう少し、御理解、御協力が得られたら、作業もスムーズに行くと思う。
- 資材・材料等の納入が遅くなった。職人の移動交通手段が困難になり工期に影響が出た。以上は除雪作業に関することではありませんが報告します。
- 元々除雪担当区間が無いため、社内に除雪体制を整備していない。当社の建設部門業態は、公共工事の割合は低いため、今後も重機、人員の増は不可と考えている。しかし、事前アナウンスに対する人員確保や、自治体保有重機での除雪作業は可能と思われる。そのためにも、事前に協議を行い調整する必要がある。
- 融雪剤を大量に備蓄していただきたい。
- 作業員の飲み物、食事等会社圣費が多くかかった。現場の除雪が出来ないで困った。
- 今回の除雪では、１４日に、県の要請でグレーダー除雪を深夜まで行い、１５日の朝から除雪できる体制であったので、早めの除雪が出来た。除雪機械までいくのに時間がかかれば、除雪が遅れる。かといって準備を行なって、実際に除雪がなければ、費用と時間の無駄使いとなる。早い除雪を行うには、除雪を行わなくても除雪の為の準備や後始末にも、費用を見られるようにすれば、早めの除雪が出来るであろう。　今回の除雪で、機械自体の傷みが激しい。当然修理費が掛かるので、単純な工事と同等の費用ではなく割り増しが欲しい。（具体的には、コントロール不能によるガードレール等との接触。竹との接触。チェーンの破損、脱落による紛失。マンホール等とブレードの衝突による排土板の変形）修理しなければ、次回の除雪に影響があるでしょう。　市道等で、農家のホイールローダーやユンボ等で除雪を行う人達がいたが。ナンバー無しの車両と事故った場合の保証等はどうなるのか。また、機械が足りなかったようだが、車検を取っている物とない物で区別したのか？
- 早く作業ができる様に現地に除雪機械を配置していたが、前日の除雪後の大雪の為、車で現地に着けず、歩くのも不可能の為、出発後１６時間も要してしまった。
- 現在県と市から除雪区域の割当を受けているが、現状の除雪体制（保有機械・能力・人員）においては今回の大雪には対応できる能力の限界であった。
- これまでのように公共事業の縮小が続けば建設事業者は疲弊して今回のような自然災害への協力も徐々にできなくなると思う。長期安定的な公共事業の発注を確保して欲しい。

- 融雪剤（エンカル）配布を土・日でも取りに行ける様な体制にしてほしい。
- 夜間から早朝にかけ通勤路を確保すべく除雪を行なっていたが、一部作業者のやる気をそぐ様な注文をつける住民もいた。地域住民の協力を願う。
- 県土整備部は県道を所管し除雪業務を行っているので、業者が現在携わっている工事現場の工程の遅延にはある程度の理解はいただけると思います。しかし、発注部局が違う工事の場合除雪作業に対する理解が足りない話を多く聞きます。降雪による工程の遅延は理由にならないかもしれませんが今回のような、予想を超えた降雪の場合工程の遅延が発生することに県全体で理解していただけるようお願いしたい。
- 発注の片寄りがなく平均して地域に仕事を発注していただき、今回の事をよく考えていただき地域の建設業者の重要度の再確認をお願いしたい。作業員など育成を考えますとあまりにも受注量が少なく、育成どころか人員削減を今でも検討している業者もいることをよく考えていただきたい。
- オペの十分な休憩を確保してあげたい。・豪雪時は県市とも協議して優先順序を決定してもらいたい。・民家等の出入口によせてしまう雪だが地元住民の理解を求めたい。
- 道路の啓開をするにしてもやって良いのか悪いのか、啓開後の除雪の雪を片づけて良いのか悪いのか。各会社回り、地元からでも始めて良いのか悪いのか。何をするにしても判断を迅速にしなければなにもかわらない。
- 連日作業が続き夜間も多く、家にも帰れない状況、自分の家の回りも除雪できない。しかし委託路線だけは作業しなければならない、作業中個人の方であたり前の様に文句を言ってくる人もいれば感謝してくれる人もいます。ただもう少し自分でなんとかしようと思う人が増える様願うだけです。こちらも人間なのでガマンの限界と、体力の限界があります。
- 今回に限ったことではないが、降雪予報にあわせて現場から重機を引上げチェーン装着等の準備に要する間接的負担や、今回のような豪雪では移動・作業時間が長いためチェーンは切れ、ブレードエッジは磨耗し部品購入・交換にかかる費用負担は業者に厳しいと感じます。また、現場を止めて除雪作業するに当たり、発注元より工期などの緩和を明確に指示いただければ、より除雪作業班の編成がしやすくなると感じます。
- ※コンビニにお弁当もなく昼食もとれず寒い中終日除雪作業をしてくれた作業員もいたが、全員愚痴も言わず取り組んでくれた。そんな社員を誇りに思う。地元の方々に喜んでもらえた除雪作業は、土木作業員を「街のヒーロー」に変身させてくれた。土木工事に携わる事は、社会貢献であることを思い出させてくれた良い機会にもなったと思う。
- 今回の様に多くの雪が降った為、機械のオペレーターが出勤できないという、今まで経験した事の無い事態が発生しました。近所に住む従業員に徒歩で出勤してもらい初動体制に問題無かったのですが、新たな課題です。
- 県、市から次々と除雪依頼が入ってきたが、豪雪の場合はそれらを統括して除雪指示をしていただきたい。・歩道の除雪は場合によっては学校生徒でもできるのではないか。
- 通常通りの除雪であったが積雪が多くグレーダで路肩にたまった雪に対して沿線住民より出入が出来ない旨の苦情があった。市街地、住宅地は除雪プラス雪の片付処理が必要になってくると思う。
- 雪深すぎて車が動かず人員の確保や移動も難しい状況でした。車高の高い車で人員を集める体制作りも今回の大雪で必要であると思いました。

・ 重機が年々古くなるので、後何年今の台数を維持出来るか分らない。
・ いずれにしろ莫大で想定外な人件費、機械費（重機リース、燃料）維持費は掛る。もっと人件費を支払できる環境（労務費、諸経費）の底上げが必要と思われる。
・ 予想外の量の為社員、作業員が出社できず土曜、日曜は出動できない状況だった。当初の対応は塩カル散布が中心の為、金曜に作業を行ったが効果はなかったように思える。
・ 除雪後数日経っても建物や木の影は積雪があり、日陰の路地は通行困難だった。そういう場所は、役所でチェックリストを作成し、迅速に対応できる状態になると良いと感じた。又、連続して数日間除雪し、２日くらいあけてまた除雪依頼の対応となると段取や準備を１からやり直さなくてはならないので、できるだけ計画的に対応できるやり方を指示して頂けるとありがたいと思う。(初めての事で仕方のない事だが)
・ 担当路線以外の要請の場合、ある程度具体的な指示をいただきたい。限られた人数、時間で作業するため効率良く動きたい。
・ グレーダー除雪機の各戸の出入口部に寄せられた雪の処理に苦労している状況が多々見られた。住宅街で集められた雪の多さの処理方法で困っている姿が見受けられた。
・ 除雪路線沿いの住民から「せっかく出入口を雪かきしても除雪車が通ると出入口に雪が寄ってしまうので困る」と言われた。
・ 異状な量の雪積の場合は災害として自衛隊要請も有り。
・ 県民、市民で除雪に対する思いが十人十色であった。１.たいへん喜んでくれた方　２.税金泥棒と暴言された方　３.自分家の出入口には除雪によりはみ出た雪を置いて行かないでと苦情を言われた方　当方は道路交通をよくするために除雪していますのでよろしくお願いしますとご了解を得ながら実施した。
・ 今後、同様の積雪が見込まれると同様の対応が取れるか大きな問題があります。又、除雪した雪をどうすれば？自治体も含めて、ルール作りが必要と思われます。
・ 除雪作業に、労力を費やしたため、本業の工事に遅れが出た。除雪作業分の日数や影響する日数を工事の工期に反映してほしい。・豪雪等に問わず要請があれば除雪作業が優先になり、除雪作業に労力を費やしたため本業の工事に遅れが発生した。発生した除雪作業等影響する日数等を工事の工期に反映して貰いたい。
・ お客様からの依頼で建物のまわり、駐車場を人力で除雪作業をした。
・ 除雪作業を行い、住民より予想以上の感謝の声が、自社に届きました。
・ ２／１２～２／２１まで葬儀中につき十分な対応が出来なかった
・ 除雪対応機械の修理～整備代が掛かってしまい労務の待機等のロスも大きくて対応機械維持が難しい。道路工事が少ない為にグレーダー等の機械の稼働が少ない。リース会社も保有してない。機械注文しても生産をしてない状況です。
・ 担当する道路が多く作業が充分に出来ない。・作業中一般車両の影響で時間のロス作業の遅延があった。・所属する会社へ勤務が出来ない社員も多く、少人数での作業になる。
・ インターチェンジの開放が予告もなくおこなわれ、除雪が完了していない箇所で渋滞による混乱が起きた。
・ 地域の住民の協力が早期除雪と交通確保には必要であり、防災無線での呼びかけをこまめにお願いしたい。　今回の積雪量は異状で主幹路線の確保が大切であり、除雪プログラムを官・民とともに構築してほしい。
・ 今回の豪雪を期に医療、福祉に携わる人は除くとしても、官庁、企業、自治体、各種団体等連絡網を確立して地域全体で除雪、排雪を考えていかなければないと

思います業者や行政が除雪を行うのが当たりまえと考えている方々が多すぎると思う事と工夫をすれば各企業、団体でも除雪出来るのに他力本願に些かあきれました。

- 前回の積雪時関越道通行止により国道１７号が混雑し、迂回道として下久屋・渋川線を利用する人が増え、津久田・綾戸間にて道路幅員が狭いためすれ違いに時間がかかり除雪作業が大幅に遅れてしまいました。今後関越道に規制がかかる様な時は下久屋・渋川線のゲート間は通行止にしてもらいたい
- 今回の豪雪を踏まえ各官庁と業者で検証し、意見交換会を開き今後に生かせればと思います。
- 除雪路線延長、除雪作業内容と除雪機械の組合わせの再考が必要。
- 最新の情報提供を受ける、または発信し除雪関係者をはじめ、一般（特にドライバー）にも情報共有が必要と思う。
- 排雪作業でドーザーバックホーだけで作業するより小型のロータリー車があれば、排雪作業の時間がかなり短縮されるので、配備の検討を願いたい。
- 古い貸与機械の更新（除雪のスピードアップ、オペレーターの負荷低減）・排雪箇所の確保・主要道路狭少箇所を確認し、拡幅や歩道の設置も検討して欲しい（今回の積雪量だと、歩道部の確保ができない）・今回は過去に例を見ない積雪であり全社的に除雪へ参加しており、通常の工事が大幅に遅延しています。工種によっては当分作業不能になってしまうので、緩和措置や、工期の検討をお願いしたい。
- 今回の異常降雪に、地元に施工工事がなく、やむなく外部（郡外または県外等）に工事に行っていれば除雪の対応は大幅に違っていて、冷汗のでる思いでした。今シーズンは手持ち受注工事が２件あり作業員が全員地元にいたので大した問題もなく除雪は土曜日に２車線確保し、その後３日ほど拡幅除雪・排雪を行う程度で完了することが出来ました。これからも、この体制（通常除雪作業員１０名最大１６名）が維持でき、作業員が安心して除雪作業が出来るよう公共事業の予算確保と公平な発注（ある特定の会社に受注が集中しない等）をお願い致します。
- 自社の除雪機械では小型すぎて対応するのに大変でした。大型の除雪機械が買えるよう公共工事を増してもらいたい。
- １７日に土木事務所から入札の指名をいただきありがたいが、早朝からの除雪におわれ我社のような少々企業は帰社してからの積算業務しかも電子入札なので時間内にとの制約もあり、大変だった
- 豪雪や震災がおこると物流が滞るので各地域に燃料の備蓄施設が必要と思われます。今回もスタンドに燃料がなくなりそうだったと聞いています。
- 都市は普段除雪の必要がなく今回のようなケースはまれではあるが、山間部からの応援の組織作りが必要なのでは…と考えます
- 今回の除雪は積雪量が多く除雪グレーダーが動かなかった。
- 除雪時、道路に駐車している車が妨げとなった為部分的に残ってしまった。→人力による除雪。今後、警察と協力し移動をさせる体制が必要。
- 今後の除雪作業にあたり、作業員の高齢化やそれに伴なう技能者の退職等で対応が十分出来なくなる恐れを感じます。それには若年層の雇用が必要であり、若者が入ってくるにはどうすべきかというものがＫｅｙかと思います。建設業には比較的低い賃金や３Ｋというイメージがあり、これらを打破するような政策がより一層必要かと思われます。それには労働単価のより一層のアップをはじめ、全てのどんな工事でも施工すれば潤えるシステムにしていく設計検討も必要かと思います。また今後将来的には業者委託だけでなく発注者側でも特殊技能者の採用や育成をしていくものも必要かと思われます。既に町役場では小型ですが町中の作

業にあたっている光景を目にしました。ぜひ検討して頂くことを望みます。

- 除雪関係重機が早い時期からのリースとなるため長期リース料の負担をお願いしたい。
- 今回、積雪量は大変多く各道路が通行止になった為会社に出勤する事が出来なかった事が初期の除雪対応が遅れた原因であると思う。
- 除雪で頑張っているので、たまには県の仕事があっても良いと思う。
- 除雪作業手順書等の統一した除雪方法の検討を願います。（１車線のみ除雪し待避所を作らず除雪している業者がいた）・孤立地区を優先的に除雪するよう、県及び市町村で連絡を取り合い業者に指示してほしい。
- 大雪の情報を受けて、オペレータを１人待機させておけば、より早い除雪が出来たと思います。また、除雪ドーザの車庫が壊れて初動が遅れるトラブルがあり、今後の教訓としたい。
- 除雪完了後に道路に私有地の雪を機械で大量に出して来る民間の家（毎年）があるので道路管理者側又は市、町、村の責任者の方に指導願えれば助かります現場においても除雪、養生、作業効率の悪さが冬期補正以上に経費を圧迫しているのでその辺も考慮願いたい。
- ①通常の除雪ならば現在の貸与機械等で対応可能ですが、積雪が３０ｃｍ位以上の場合は、ロータリー等で雪を飛ばさないと幅員等の確保が出来ない。また、除雪機械の場所まで車で行けない等の問題もあります。
- 豪雪に対応する程度（除雪の状態とスピード）をどこまで、目指すかによって準備と体制が大きく変わるので難しいと考えます。
- 融雪側溝の雪詰まりによる水路オーバが大前地区で多発している.（使用方法、側溝の見直しが必要ではないか）
- 除雪作業に関わる作業員の負担が大きすぎると感じた。オペレータ不足による連続作業、深夜早朝作業により疲労が蓄積して、危険であった。◦懸命に作業しているのに報われない。◦困った時だけ建設業に要望されても…役所、業界ともに普段から、国民、住民に建設業の重要性を周知していかなければならないと感じる。
- こんな大雪は珍しいとは思いますが排雪する場所の確保をお願いしたい。（今回は当社資材置場に仮置しています）
- １、例年、降雪の少ない地域での今回の豪雪であった為、対応に大変苦慮しました。県道の通行止待機中の作業員が孤立する事態となりました（車の移動が不可能になり、その場から動けなくなった）是非、夜間のゲート管理の為の現場待機についても検討願いたい　２、下仁田軽井沢線の初鳥屋ゲートは老朽化の為、固定ができませんでした。またゲートは設置場所に問題があるので、修理と移設などの対応をお願いしたい
- 連続雨量による、予備規制、通行規制が設定されているのと同様に、積雪に関しても積雪量等による、早めの通行規制が必要だと思われます。
- 要請元が自治体からであり、人員確保、機械及び資機材の手配に苦慮した。
- 山梨県都留市の様に「除雪対応マニュアル」を各自治体で作成する事が望まれる。
- 従業員全員一丸となって人命救助という大きな仕事に寝る間もなく一生懸命に取り組んだ、社長も「身内の葬儀より、今、助けを求めている人達を最優先に除雪を進めてほしい」と従業員全員に話をした。

■ 人命救助等実績報告

① 救助に向かう緊急車両（救急車・警察車両等）を除雪機により先導した実績

・ 国道５０号線脇道の農道で救急車が立ち往生しており、人力にて救助。グレーダーで広い市道まで先導した。
・ （主）高崎東吾妻線松之沢地区内で普通乗用車１台、乗員２名が雪中に閉じ込められたとの連絡を２／１５未明に高崎土木よりあり。警察車両２台を先導する形で午前２時より午後４時頃までグレーダーにより除雪。・午後３時～５時半まで自衛隊車両１台が加って先導除雪。
・ 高崎渋川線に於いて飯塚町で救急車が道路中央部に積もった雪のため右折出来ないでいたので、ホイルローダーにて除雪した。
・ 倉渕町岩氷地内で、除雪中山林の養鶏場の火災を発見し、通報した。また、消防署の現場確認車の搬入路を除雪ドーザ、グレーダにて、除雪した。（２／１５）
・ 交差点内で立ち往生する一般車両が多数いた為、交差点内の除雪を、急ぐ様に言われ対応した。（消防関係救急車両通行のため）
・ ２／１５．警察署内の除雪.
・ 渋川、松井田線にて（四ツ角付近）レスキュー車が立往生した際、グレーダーで先導、除雪を行った。
・ ２／１６ＡＭ８：００～ＰＭ２：００除雪場所渋川市北橘町地内を救急車両通路確保の為警察車両先頭によるグレーダー除雪作業２／１６ＡＭ１０：００～１２：００除雪場所吉岡町大久保地内で救急車と消防車両をブルドーザで除雪による先導
・ 平成２６年２月１６日（日）午後１時頃、吉岡町陣場地内の【田中病院】で積雪の為緊急車両が入れないので、除雪等の対応要請が町役場からあり、グレーダーにて除雪をしました。
・ ２月１５日の大雪のため、渋川松井田線（榛名カーブ２３付近）で立往生した遭難者を救助に向かうレスキュー隊員を除雪機（グレーダー）に乗せて途中（榛名カーブ８付近）まで搬送した。
・ 棚下のトンネル付近に取り残された車両及び人の救助に向かう警察車両を先導しながら除雪ドーザで除雪を行ないました。
・ ２月１６日救助に向かう救急車を除雪機により先導した。後日、西消防署長より御礼の連絡あり。
・ 水上地区でも雪崩で道路が封鎖されたので開通に除雪車を出動させた。住民も車両への説明、誘動に協力してくれた。
・ 警察車両をけん引した。
・ ２／１６．５：３０～７：３０神流町魚尾（上小越）の住民の安否確認を行なう為の救急車・隊員が向う為の道路除雪を行なった。
・ ＬＸ７０を先頭に除雪しながら、軽トラで後方から追尾した。緊急車両の先導は無かった。
・ 停電地区の安中市上後閑において県道一本木平小井戸安中線で除雪作業することにより東京電力の車輌を通加させた。
・ 救護に向かうレスキュー隊、緊急車両が途中立ち往生していたため、Ｃ１４０付近まで除雪しながら先導した。
・ ２月１６日（日）１９：３０～２３：３０東吾妻町地内町道を緊急に除雪．目的は、倒木による東京電力架線の断線復旧を行う作業車両を、除雪しながら先導し

地域の停電を解消できた。

- １５日６時～８時ショベルローダーにて救急車の先導を行った。約３㎞往復
- 東京電力緊急車両の除雪車での先導
- ２月１５日七久保～橋倉線（林道）にて、遭難者ありと連絡がありＡＭ５：００に出動したが、降雪量が多く除雪車では現地までたどり着けなかったが、努力は大いにした。
- 消防署署員の依頼で、出入口の除雪をした。内山第１ゲートから市ノ萱大橋先まで救急車を除雪しながら先導した。

② 雪に埋もれ立ち往生した車両に取り残された人の除雪救助実績

- 大手町二丁目一丁目（県庁前南北通り）、国道１７号（県庁南信号）周辺＊スッタク車６台を地域の方々と救助
- 前橋市朝倉町地内の農道で畑に転落していた軽乗用車から運転手１名をドア周辺の雪を取り除き救助（２／１５夜）
- スタックした車の救助を５台行った。
- 高崎東吾妻線松之沢地区内で普通乗用車１台、乗員２名が雪中に閉じ込められたが、最終的に遭難車両に辿り着けず、２／１５午後５時頃自衛隊員徒歩により２名の救助。除雪作業は中断となり翌日より再開。後日２／２５に車両救出完了し運転手本人にて車両下げる。
- 高崎渋川線及び高崎駅付近に於いて立ち往生した車両３０台程ホイルローダーでけん引し救助した。
- 長野原－倉渕線の川浦にて、雪崩の影響で車輌の半分を埋もれた車輌１台と、スタックした車輌１台を除雪ドーザにて引上げ、除雪された区間（約３ｋｍ先）まで、除雪ドーザにて先導した。（２／１５）
- 坂道で動けない車両を１０台くらい助けました。
- 太田大間々線ラーメンいずみ前の軽自動車立ち往生の手助けを実施。２／１５
- ２月１５日、国道３５３号（桐生市新里町板橋地内）において、トレーラ（タンクローリー車が豪雪により立ち往生していた。タイヤチェーンは切れており、車体は「くの字」になっており、車両が行き来できる状態ではなかった。レッカー業者は忙しくてすぐ現場へは来れないとのことだったので、除雪グレーダにより牽引し脱出させた。
- 除雪開始当初、立ち往生した車両の脱出に協力したが、これをやっていると除雪作業が進まなくなる為、３台程度協力した後、実施しませんでした。
- トレーラトラック、大型トラック等の牽引を数台。普通乗用車の牽引は、できる限り行い、台数は不明。取り残された人の救助はなし。（取り残される前に牽引をすませた）
- 跨線橋にてノーマルタイヤ車両が通行不可になり、スコップにて人力除雪後無事に脱出した車両２台、一般道にてタイヤショベルにてけん引した車両３台、人力除雪し後方より数人で車両を押した車３台。
- 除雪の済んでない駐車場に車両（４ＷＤ）が立ち入り、動きがとれなくなり、２～３名にてスコップにてタイヤ回りを除雪し車両をおして、その場～だした
- Ｒ３５４ＢＰ新南跨線橋、大型トラック３台、乗用車３台救助（夜中に大渋滞）・木崎跨線橋付近にて大型トラック４台、乗用車８台救助、新田上江田尾島線、乗用車５台救助。早川団地（日野自動車前）乗用車７台救助．※全てブルドーザ、

タイヤショベルにて除雪救助

- 大雪により走行が危険な状態になった路線を通行止めの規制をかける際、区間内で立ち往生した車両が２台有、封鎖前に誘導。
- ２／１５ＡＭ７：００頃薮塚西長岡線（北関側道跨線橋）西長岡町５８７地先で２０～３０台の車が立ち往生していたところ市の要請により除雪を行ない、移動出来るようにした。
- 渋川～沼田方面が、国道１７号と県道共に大渋滞となり、渋滞をさけようと市道に入り埋もれた県外車両を、市道を除雪中に５台救助した。
- ２／１６ＡＭ３：００～６：００救助場所吉岡町大久保駒寄スマートインター周辺に普通自動車３台が雪による立ち往生の為、除雪しながらブルドーザ、タイヤショベルで退避場所まで牽引
- 平成２６年２月１５日（土）午前２時頃、渋川吉岡線で車両３台をグレーダーにて牽引して救助作業をしました。
- 下久屋渋川線◦燃料切れ車両１台給油◦スタッフ車両救助１３台
- （一）日向南郷大原線、薗原トンネル内にいた車両３台を救出。（一）日向南郷大原線で、雪崩により立ち往生していたパトカー１台を救出。その他地元の車両３台救出。
- 雪に埋もれ立ち往生した車両を５・６台救助した。
- 担当除雪区間で３台の車が立往生していたので救出した。
- スノーシェッドで雪崩が発生し車両２台がシェッド内に閉じ込められ、その車両救出に夜間、ロータリ除雪車を出動させて無事救出しました
- ６０代男性、雪で車両が動かなくなり求助。２０代男性、雪で車両が動かなくなり救助。
- 動けない車をけん引した。
- 利根町赤城沢付近で立ち往生した車両を救助した。・利根町薗原ダム付近で立ち往生した車両を救助した。
- 立ち往生した車を救助した実績は数件あり。
- ２／１５（土）午前１時ごろ白根温泉上のスノーセットの間でなだれにはまった車を引き出してトーザで除雪してひきかえしてもらった。
- ２／１５未明早（主）川横塚線の小住温泉で雪崩発生、県外の車が雪崩に埋まっていた為ロータリ除雪車とＴＣＭ付ドーザでまわりの雪を除雪し車は作業員４名で人力除雪して出した。２／１５未明（主）早川横塚線木成林道付近で雪崩発生、地元の車が雪崩に埋まっていた為２／１６にロータリ除雪車ＴＣＭＤｔドーザ作業員４名で同上と同じ方法で出した。
- ２／１５三国峠で最初の雪崩が確認され通行止めを行う以前に通行していた一般車７台が前後を雪崩により塞がれ立ち往生していると連絡があり、ロータリ除雪車と除雪ドーザで、雪崩の雪を排除しながら救出した。２／１６通行止めを無視した一般車両が三国峠を登り雪崩で車両が横転し、警察から救助の要請があり、ロータリ除雪車２台で救助を行なった。
- 上日野地区奈良山付近で立ち往生した車両１台を発見、ＬＸ７０で車両周辺を除雪して、救助した。車両内に２名を確認し、呼びかけにもしっかりと応答していて自力で車両を運転できるとの事だったのでそのまま下山してもらった。まる１日間車両内に居たとの事だった。発見当時、食料はなく、ペットボトルの水２本だけだった。
- ２月１５日（土）８：３０に安中市から前日の夜中に仙ヶ滝の滝を見に行って雪に埋もれ立ち往生している団体（車５台、２０名救助）道巾が３ｍと狭く、積雪

８０ｃｍからあり、県有除雪ドーザと自社所有の除雪ドーザで５時間かけて全員及び車輌を救助した。

- Ａ、安中土木事務所からの依頼で旧１８号（碓氷峠）Ｃ１４０付近に１４日未明に立ち往生した車両を救護に向かい約７時間かけて除雪しながら進み１６日午前２時に１名を救護した。Ｂ、安中土木事務所からの依頼で旧１８号（碓氷峠）めがね橋付近と熊の平駐車場付近で、立ち往生した２台の車輌に取り残された３名を除雪しながら１５日午後５時に救護した。
- （国）１４６号県境で車両を雪から人力で掘り出し救助しました
- ２月１５日国道２９２号小雨地内１台２／１６日国道４０５号入山見寄地内３台
- 積雪約８０ｃｍの中、役場のグレーダーが横にすべり動けなくなった為、自社（土木事務所）の除雪車で引き上げた。
- スタックした車の救出
- ２月１５日早朝、国道１４４号線嬬恋村三原三角岩付近、国道脇吹き抜け法面から、小雪崩が発生し、車両３台通行不能。タイヤが埋まる程度の雪崩であったが、通行不能で立ち往生していたので、除雪車にて一台牽引して避難させた。他の２台は除雪及び除雪作業員により誘導、自力走行避難した。同国道ではその後何回か小雪崩が発生した。直後より、嬬恋村三角岩付近から半出来付近まで、雪崩の危険のため、１６日午後３時ころまで、国道１４４号は通行止めとなった。
- ２月１５日（土）国道２５４号線にて雪に埋もれ立ち往生した一般車両を約７台位、除雪中のショベルローダにて牽引した。
- １４日１７時半頃より担当路線の除雪に向った。除雪中、異常な降雪を感じ、作業を中断して撤収したが、１５日８時頃六車大橋付近でグレーダーが立ち往生してしまい、会社と連絡を取りながら徒歩にて帰社を決めた。昼頃、桧沢大橋手前で長野ナンバーの車両が立ち往生していたので無事を確認し、本人が留まると言うので危険を感じたら民家へ避難するように忠告し、自分達の手持ちの飲食料を全て与えて来た。
- 高梨トンネルまで食料を購入し、持って行った（７台分）停留車両を除雪機で動ける所まで移動した。
- １４～１５日早朝にかけて幹線道路（佐野～行田線）カーブのある誇線橋においてスリップし立往生した車両を４～５人の人力により押して脱出させた。この間都合６台の車両を救出した。
- ３台救助。２台は道路上にて立ち往生した車両をけん引。１台は交差点にてスリップ事故の車両をけん引。

③ 孤立した集落や住宅に向けた除雪救助実績

- 大手町二丁目歩道橋の除雪とその周辺地域の歩道の除雪
- 前橋市柏倉町赤芝の孤立集落道路除雪（２／１５，１６）
- 吉井町東谷大判地地区は３軒で簡易水道を使用していたが、断水が続いた。集落より更に２００ｍ程奥が水源地のため、水源地に向う道を確保するため除雪を行った
- １８日高崎土木事務所より高崎市吉井町東谷（大判地）に孤立した集落への除雪要請有り、除雪ドーザを派遣した．２３：３０頃開通して孤立解消した。
- 孤立住宅があるので、除雪をと指示があり、連絡当日と翌日に、作業した。
- 平成２６年２月１７日１７：２０頃に高崎土木事務所より緊急連絡あり連絡内容

は、（主）高崎神流秩父線高崎吉井町東谷地内で４件が孤立してしまっている。大雪のため電線が切断されており、すでに２日間停電となってしまっていて、年配者が多い集落なので人命にもかかわる事態となっている。今夜中に東電の復旧作業ができるよう、大至急除雪作業に向かってほしい。・すぐに重機を廻送し、１７：５０頃より２台のショベルローダーで、路線延長２．０㎞区間の除雪作業（東電の復旧作業担当者と打ち合わせを行いながら）を開始する。・２２：５０孤立集落までの除雪が完了し、東電の復旧作業が始まる。高崎土木事務所へ連絡し、２３：３０帰社して任務完了。

- 高崎市の依頼で急遽停電復旧の為、倉渕町岩氷地区の除雪を行った。（２／１５）
- 高崎市倉渕町内において、市道部より枝道の除雪がされてなく、山間部の鳥屋（養鶏場）より救助依頼があり、パワーショベルにて除雪を行った。しかし、他の除雪に時間がかかり救助作業を行えたのは、依頼より２日後であった。他に民間より２件、同様の依頼があった。
- 市の要請により、民間の別荘地内の道路を除雪しました。・５件程度の集落に向け、除雪をした。３日程かかった。
- ２／１４（金）雪、降始め日、午後より担当路線（一）沢入桐生線約８．０ｋｍ除雪タイヤシャベルにて一通り全線完了。明日に控える。２／１５（土）豪雪、朝より上記の路線除雪作業（下より約５．０ｋｍ所に４・５本倒木有り。幅員約３．０ｍ道路封鎖発覚。ＰＭ２：００頃東電の電線に掛ってた為、危い為、作業依頼、土木事務所に電話。夕方の為５ｋｍ先の住宅３件孤立。２／１６（日）当社、自治会、東電にて伐採作業、その後除雪作業して開通させました。
- 桐生市の依頼により、広沢６丁目の賀茂神社より奥の民家３件の孤立集落の山道除雪と倒木撤去を実施２／１７
- 国道、県道、市道の基幹道路を除雪後、市よりの依頼で狭い市道の周辺やその先の孤立集落の除雪を行った。・住宅から出られなくなってしまった方を救助した
- グレーダーでの除雪中、約１００M離れた所で、手を振る人を発見した。その家まで、外に民家が無く、人力での除雪は、困難と、判断して除雪した。
- 地域内で要請が数件あり、住宅につながる細い日陰道など除雪した。（高齢者の家や、神社につながる道等）
- 徳川町、出塚町、大舘町付近の孤立状態を解消する様、指示を頂き、上武道路までを通行可能とした。
- 非常に狭い市道の為に除雪トラックでは、作業不可能な場所が多く、重機が廻送できるようになってから、バックホウ数台で除雪救助した。
- 早朝に団地への取付道を、夜間深夜に行いました。
- 市からの要請により、山間部の住宅が数行孤立している為優先して除雪に向った。
- ２／１７ＰＭ１：００～６：００除雪場所吉岡町上野原水沢、足門線をグレーダーで除雪し生活道路の確保
- 平成２６年２月１７日（月）午前９時頃、『家族を透析のため病院につれて行きたいが駐車場から車を出すことができないので助けてほしい』と弊社に連絡があり、ただちに除雪をして駐車場から車を出しました。
- 赤城町柵下・芳ヶ沢・深山・集落エリア
- 片品村内の歩行不可能な車椅子使用の女性宅より、要請があり、村道までの出口を確保。
- 町の社会福祉協議会の依頼にて、１人暮らしの老人の家の屋根の雪降ろしを行った。５件
- 駐車場から出られない車両の除雪を多数（２０件以上）実施した。

・ 孤立はしていないが住宅から車両等の出入りが困難な場所の排雪作業を行い、出入りができるようにした。
・ 県道下日野・神田線（担当路線）の除雪で藤岡市高山地内の孤立化集落解消につながりました。
・ 上野村、堰ノ沢集落・やまびこ荘迄２／１６　７：３０～２４：００Ｒ・２９９砥杜車道、２／１７　７：００～２／１８　６：３０昼・夜２班で行なう.
・ ２月２０日藤岡市役所より、三波川上妹ケ谷の山頂付近の一軒家（老女の１人居い）の孤立解消のため山間道路の除雪依頼があり、積雪１．０ｍを超える中を夜８時すぎまで作業して除雪完了した。
・ 国道４６２よりの孤立した法久集落への除雪作業。
・ 多野郡神流町（一）小平下仁田線沿線の孤立した集落へ向けた実績２／１４～２／２０の間、毎日朝３時頃～夜９：００頃までホイールローダーで除雪して、４集落の孤立を解消した.
・ 日野地区、三波川地区、法久地区、万場地区、上野村野栗沢地区、白石地区
・ 藤岡市上日野鹿島地区までの県道除雪作業（２／１５～２／１７）・上野村野栗沢胡桃平集落までの村道除雪作業（２／１５～２／２０）・上野村野栗沢奥名郷集落までの村道除雪作業（２／１５～２／２１）
・ 主に市道にて実施（担当路線外も含む）
・ ２月１７日上増田（新開）１軒２月１８日二軒在家（３軒）２月１９日土塩（三ツ室）１軒土塩（松原）２軒上増田（枝ヶ沢）１軒２月２０日土塩（竹ノ内）５軒上増田（新開）１軒２月２１日上増田（新開）１軒
・ 県道一本木平小井戸安中線安中西上秋間で孤立した２世帯を除雪作業によって救助した。
・ 安中市大谷地区２ヶ所生活道路安中市板鼻地区１ヶ所生活道路
・ Ａ、安中市の委託路線、北野牧、市道恩賀線を除雪し沿線に住む２世帯３人を１７日午後１１時に孤立から解消した。Ｂ、県からの委託路線、北軽井沢松井田線の終点、霧積温泉までを除雪し、経営者と、その妻を２４日午後４時に孤立から解消した。
・ ２／１８（火）～１９（水）東吾妻町大字川戸地内の別荘１軒（タイヤショベル１台＋グレーダー２台）×２日＝タイヤショベル２台＋グレーダー４台・２／１８（火）～２０（木）東吾妻町大字大戸地内の民家４軒（０．２５ＢＨ１台＋作業員１名）×３日＝０．２５ＢＨ３台＋作業員３人
・ 独居老人が自宅から出られず通路の確保３件車両の除雪２件
・ 栃窪地区の住宅への除雪。
・ 関係市町村より孤立した集落までの除雪の要請が２件あり実施
・ 孤立集落解消下仁田浅科線屋敷集落に１５日の日は４時間かけて１ｍ以上の積雪の中徒歩で重機を取りに行き、集落への道を除雪した。孤立解消まで４日間を要した。途中雪崩が２箇所あり身の危険を感じた。
・ 甘楽町大字秋畑地区
・ 県道９３号下仁田臼田線馬坂集落地区復旧、長野県佐久市田口広川原まで・県道２０１号星尾羽沢線星尾集落地区復旧
・ 下仁田町平原、七久保地区に関しては昼夜を問わず除雪を行った。南牧村熊倉（大上林道）ではなだれにより道路に６ｍ以上の積雪があり、岩山工事で現地に重機があったのだが、ＯＰがたどり着けないためヘリコプターによりＯＰを空輸してもらい、バックボーで除雪を行った。
・ 電線に倒木があるので、機械除雪が出来ないため人力で歩道を付けた。倒木処理

後速やかに除雪した。・林道箇所、ＢＨ、ショベル対応で２４Ｈ除雪対応した。・急勾配、狭い道路は色々の機種を組合わせて対応した。

・ 高齢な女性がひとり暮らしのため積雪により家から出られないため道路までの敷地除雪。

④ その他

・ 前橋市からの依頼で日本赤十字血液センターの車輌が通行できるように除雪を行った。・前橋東警察署内の駐車場除雪を行った。
・ 会社の前でスタックした車両を押してやった。
・ 街中は老人が多く自宅前も除雪ができない。近くを除雪している際に隣人の方が除雪を依頼してくることがあり、対応した。
・ スリップしていた車を押した。１０台以上
・ 立ち往生した車の牽引や雪道からの脱出支援多数
・ １．消防署からの要請があり、緊急車両が出動できるように最優先で除雪した。
２．病院から要請があり主要道路にアクセスできるように除雪した。
・ 緊急車輌を出動可能にする為、倉渕分署の除雪を行った。（２／１５早朝）
・ 会社通勤時、積雪の多さで立ち往生している人（２名）を勤務先まで乗っけていった。
・ 個人の出入口箇所の苦情による除雪
・ 除雪時の重機の移動には、かなりの時間がかかりますが除雪の依頼状況が早めにわかる災害情報システムが確立されれば確認の手間や、時間のロスが少なくなると思う。
・ 線打、小中学校、幼稚園、木崎小学校駐車場除雪※会社周辺においては、多用に対応しました。・通学路確保、民間の出入口確保など、新田下田中地区は、特に協力的であった。
・ 国道１７号半田交差点から、群馬県立渋川小児医療センターまでの除雪とセンター緊急車両が出入できるように駐車場内も除雪。
・ ２／８エンカル撤きの時に（村上伊香保線）、降雪中に２人で、動かなくなった乗用車２台を動くように、押し出してやった。
・ 県道に立ち往生し、緊急車両の妨げになっている車両を、砂撒き２ｔダンプでパトロール巡回して、ワイヤー等で６台程移動、けん引しました。管内にて、除雪中に、車両事故を警察立会の上、車両移動しました。
・ 地域住民が共同で除雪作業をしているので重機による除雪の手伝いをする。裏路地が凍結してすべるとの話しがあり小型重機にて除雪の手伝をする。
・ ①２／１６ＡＭ８：００～９：００吉岡町住民より、小児のインフルエンザによる病気で救急車両が入れない為、除雪車両で車道確保。②２／１６ＡＭ６：００～７：００吉岡町住民より、大学入試の為、道路確保。③２／１６ＰＭ５：００～１０：００飲食店、コンビニ等が雪による食料届かず、搬入道路の除雪。
・ 下雪（南にも降る雪）のため屋根の除雪（ボランティア含む）を１０件以上実施した。
・ 他社の契約区でも緊急車両を含めた車両の通行困難な所を排雪作業を昼夜行い、車両の通行を円滑に行えるようにした。
・ 今回の大雪では人命救助までの事は無かったが、立ち往生した車の救助や車が入れない集落までの除雪は行ないました。

・ 車両が河川に墜落後日引き上げ予定
・ Ｒ３５３湯原トンネル出入り口（四万側）で雪崩により道路が完全に封鎖された。その復旧を比較的近くに合った現場よりバックホウやタイヤショベル自走し対応した。また、緊急の為本来除雪路線でない、町道等を迂回路として確保する為、復旧作業をしている間にその除雪作業を実施した。

４．平成２６年豪雪対応に関する緊急アンケート調査票

平成２６年　２月２５日
(一社)群馬県建設業協会

【調査の目的】

本県は、２月１４日から１５日にかけて発達した南岸低気圧により豪雪に見舞われ、７名が死亡（２月２３日現在）したほか、経済的にも大きな被害を受けました。

会員各位にあっては、昼夜を問わずこの豪雪対策にあたっていただき感謝申し上げます。

当会では、平成２１年１１月に「除雪に関するアンケート調査」を実施し、除雪体制の維持等に関する警鐘を鳴らしたところ、群馬県においては県有除雪機械の増加などの諸施策を推進していただいているところです。

今回の豪雪は、観測史上最大の積雪量を記録した豪雪であり、その除雪作業を調査して今後の豪雪対策に関する教訓を得るために緊急に実施します。

【お願い】

回答は、選択した該当番号を○で囲み、「その他」を選択した場合は、（　　）内にその理由を記載して下さい。

３月３日（月）までに、所属する支部にＦＡＸして下さい。

【２月１４日、１５日の豪雪に対する除雪作業の実績】

問１．貴社は、県、民間等から要請を受けて除雪作業を行いましたか。

1.　実施した　　2.　実施しない

＜問２.から問８.は、「実施した」場合に、お答え下さい。＞

問２．要請元はどこでしたか。要請元をすべてお答え下さい。

1.　国　　2.　県　　3.　市町村　　4.　ネクスコ
5.　民間（商店、工場等）　　6.　その他（　　）

問３．除雪作業を実施した作業人数を実施日ごとに実人数で教えて下さい(回答日まで)。

注１　作業人数には、作業責任者を含みます。
注２　同一日に複数の要請元の作業をした場合はどちらにもカウントして下さい。
注３　作業が昼夜に渡り日付をまたぐ場合も両日カウントしてください。
（例：１人が１４日２２時～１５日１４時　→　１４日１人、１５日１人）

	2/14	15	16	17	18	19	20	21	22	23以降
国										
県										
市町村										
ネクスコ										
民間(商店・工場)										
その他										

問４．　１４日から回答日までの除雪作業に使用した除雪専用機械と一般建設機械の延台数（１日稼働を１台とカウント）を教えて下さい。（回答日：___月___日）

注１　除雪専用機械は、県との道路除雪委託契約の分類で願います。
注２　一般建設機械は、通常の工事に使う建設機械を除雪に使った延台数。
注３　同一日に複数の管轄路線で使用した機械はどちらにもカウントして下さい。

機械		国	県	市町村	ネクスコ	民間	その他
除雪専用機械（県との道路除雪委託契約分）	ロータリ除雪車						
	除雪トラック						
	除雪グレーダ						
	除雪ドーザ						
	除雪ローダ						
	凍結防止剤散布車						
	車載式散布車						
	小型除雪車(機)						
	スノープラウ						
	ダンプトラック						
	その他(　　)						
一般建設機械	ブルドーザ						
	油圧ｼｮﾍﾞﾙ(ﾊﾞｯｸﾎｰ)						
	トラック						
	ダンプトラック						
	その他(　　)						
	その他(　　)						
	その他(　　)						

【除雪体制】

問５．　今回の豪雪に対して貴社は所属管内の除雪体制をどう評価しますか。

1.　十分対応できた　2.　対応できた　3.　不十分だった
4.　その他（　　）

問５－２．　「不十分だった」を選択した方にお聞きします。どんな点が不十分でしたか。次の中から主に感じた点を３つ以内で上げて下さい。

1.　管内の積雪量が多く、管内の除雪体制の能力を超えていた。
2.　除雪機械が積雪量に対応できなかった。
3.　積雪量が多く、除雪作業が長くなり作業者が不足した。
4.　国、県、市町村の除雪計画や要請方法に改善点が見られた。
5.　除雪作業に対する県民の理解と協力が不足していた。
6.　その他（　　）

問６．　今回の豪雪に対して貴社の除雪体制はどうでしたか。

1.　十分対応できた　2.　対応できた　3.　不十分だった

4.　その他（　　）

問６－２．　「不十分だった」を選択した方にお聞きします。どんな点が不十分でしたか。次の中から主に感じた点を２つ以内で上げて下さい。

1.　担当区域の積雪量が多く、当社の除雪体制の能力を超えていた。
2.　除雪機械が積雪量に対応できなかった。
3.　積雪量が多く、除雪作業が長くなり作業者が不足した。
4.　社内の準備、連絡体制に改善点が見られた。
5.　その他（　　）

問７．　通常の積雪時において貴社の除雪担当区間（距離）についてどう考えますか。

1.　長すぎる　　2.　適切である　　3.　短すぎる

4.　その他（　　）

問８．　現在の状況（担当距離・受注環境等）が継続した場合、貴社の除雪体制が維持できますか。

1.　今年度まで可能　　2.　１年後まで可能　　3.　３年度まで可能

4.　５年後まで可能　　5.　６年以上可能

6.　その他（　　）

問　８－２．　貴社の除雪体制を維持するには何が重要ですか。次の中から主に考える点を３つ以内で上げて下さい。

1.　公共事業関係予算の確保、発注量の長期安定化
2.　発注時期の平準化、早期化
3.　ダンピング防止対策（低入札価格調査制度の充実強化等）
4.　設計の不備等、建設現場の収益性阻害要因解消の徹底
5.　入札契約制度における除雪実績の更なる評価
6.　県有除雪機械の拡大
7.　除雪業務委託料の改善（単価アップ等）
8.　その他（　　）

問９．　今回の豪雪により、工事の進捗状況への影響はどうなるでしょうか。

1.　大いに遅れる　　2.　遅れる　　3.　影響はない

4.　その他

【自由意見】

今回の豪雪対策を経験して除雪作業に関する意見、要望を、お聞かせ下さい。

「国、県に対する要望・提言」

「自社の除雪作業の工夫・改善・効果のあった点」

「その他」

お忙しい中、アンケートにご協力いただき誠にありがとうございました。
ご回答票は、３月３日までに〇〇支部にＦＡＸ（000-000-0000）して下さい。

平成 26 年 2 月 28 日

一般社団法人群馬県建設業協会
会　員　各　位

一般社団法人群馬県建設業協会
会 長　青 柳　剛

豪雪対応に関する緊急アンケートの追加質問について（人命救助等実績）

豪雪対応に関する緊急アンケートについて、ご協力をいただき感謝申し上げます。
さて、標記の件について追加で調査を行いたく、大変お手数をおかけいたしますが、事例がございましたら下記にご記入の上、３月３日（月）までに報告をいただきたくお願い申し上げます。

※ 先のアンケートを既にお送りいただいている方については、お手数ですが本回答票のみを所属支部にＦＡＸにてご報告ください。
※ また、先のアンケートをまだ提出していない方は、先のアンケートに加え本回答票も併せてご回答いただき、所属支部にＦＡＸにてご報告ください。
※ 実績がない場合は、回答いただく必要はありません。

平成 26 年 2 月 14 日～28 日までの間に、除雪作業により人命救助等を行ったことがある方は、その実績の具体例（概要）を下記に記入して下さい（記載内容は自由です）。

① 救助に向かう緊急車両（救急車・警察車両等）を除雪機により先導した実績

② 雪に埋もれ立ち往生した車両に取り残された人の除雪救助実績

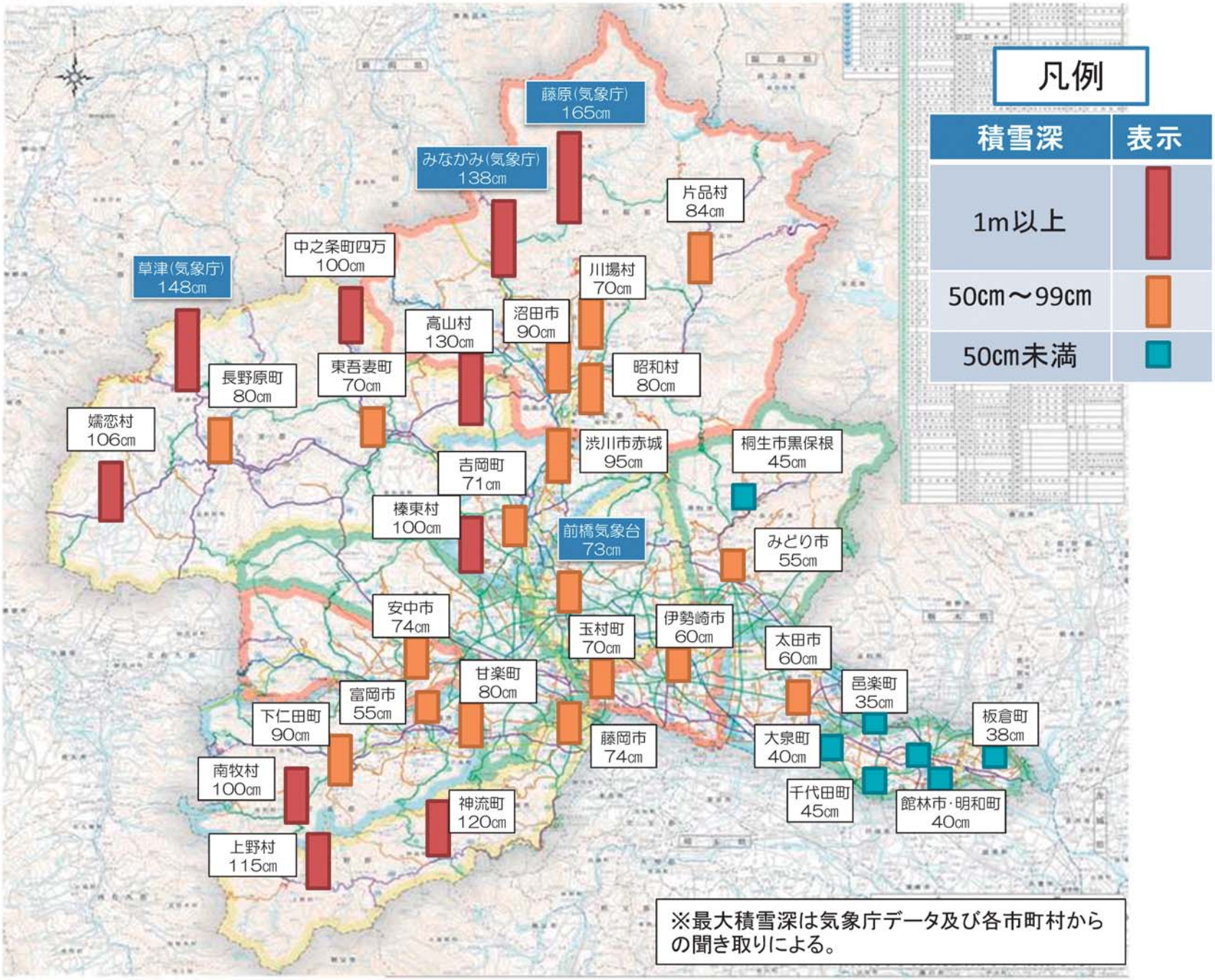
③ 孤立した集落や住宅へ向けた除雪救助実績

④ その他

※ 上記に書ききれない場合には、別途記載してご報告ください（様式は自由です）。

５．参考資料

① 群馬県内の最大積雪深（２月１４～１５日）　※ 群馬県県土整備部作成



② 2/14（金）からの大雪に関する情報（第２１報）概要

※ この情報は、平成 26 年 2 月 28 日(金)18:00 時点で群馬県総務部危機管理室と消防保安課が、庁内関係課、行政(県税)事務所、市町村、消防本部、警察本部等からの報告・連絡に基づき取りまとめたものを抜粋したものです。

被害状況等※現在確認中

（１）人的被害

①死者８名（前橋市１、伊勢崎市１、藤岡市１、富岡市１、中之条町１、川場村１、南牧村１、沼田市１）

②行方不明なし

③負傷者９４名

・重傷２５名（高崎市１、沼田市１、藤岡市４、上野村１、東吾妻町１、みなかみ町３、大泉町１、草津町１、昭和村１、伊勢崎市３富岡市２、渋川市２、安中市３、前橋市１、）

・軽傷６９名（高崎市２２、桐生市２、太田市４、沼田市３、富岡市２、藤岡市１、みなかみ町２、甘楽町２、館林市１、前橋市１１、伊勢崎市７、渋川市５、吉岡町１、下仁田町１、玉村町１、大泉町１、安中市２、草津町１）

（２）住家・非住家被害

・住家全壊　２棟（高崎市１、昭和村１）
　半壊　０棟
　一部破損　２７棟（太田市７、沼田市１、大泉町２、上野村１５、南牧村１、みどり市１）
　床上浸水　１棟（前橋市１）
　床下浸水　４棟（嬬恋村１、みなかみ町１、沼田市２）

・非住家全壊１３棟（太田市６、東吾妻町１、川場村１、甘楽町２大泉町１、邑楽町１、上野村１）
　半壊３棟（太田市１、沼田市２）

ライフラインの状況

○停電最大停電軒数２０４，８７９軒（2/152:10 時点）
　現在停電軒数　０軒（2/2114:57 時点）

災害救助法の適用

（１）国道１８号碓氷バイパスの通行止めにより、多数の者が生命又は身体に危害を受け、又は受けるおそれが生じ、避難して継続的に救助を必要としている。

【適用日】　平成２６年２月１５日（土）

【適用市町村】安中市

（２）大雪による孤立化集落の発生により、多数の者が生命又は身体に危害を受け、又は受けるおそれが生じ食品の供与等について継続的に救助を必要としている。

【適用日】　平成２６年２月１７日（月）

【適用市町村】藤岡市、上野村、神流町、下仁田町、南牧村、高山村、東吾妻町

【適用日】　平成２６年２月１８日（火）

【適用市町村】　沼田市

その他

（１）国の体制

２月１８日（火）、内閣府において、「非常災害対策本部」を設置するとともに、本県（県庁舎内）に「政府現地災害対策室」を設置した。

(参考：山梨県に非常災害現地対策本部、埼玉県に政府現地災害対策室を設置)

③ 主な除雪機械と特徴　　※ 群馬県県土整備部作成

機械名	特徴	機械名	特徴
除雪ドーザ 	・駆動力が大きく、小回りが小さく、きめ細かな除雪が可能 県：41台 民間：95台	ロータリ除雪車 	・路肩の堅くなった雪など1m超の積雪に対応 県：25台 民間：13台
除雪トラック 	・高速移動で除雪が可能 ・バイパス、幹線道路の除雪向き 県：17台 民間：6台	小型除雪車 	・ロータリ除雪車の小型タイプ ・歩道や幅員が狭い道路に対応 県：6台 民間：1台
除雪グレーダ 	・新設除雪や路面圧雪のはぎ取り向き 県：8台 民間：110台	凍結防止剤散布車 	・凍結防止剤散布 ・凍結路面に対応 県：45台 民間：0台

一般社団法人
群馬県建設業協会
The Associated General Contractors of GUNMA

〒371-0846
群馬県前橋市元総社町2-5-3　群馬建設会館内
TEL 027-252-1666　FAX 027-252-1993
URL http://www.gun-ken.or.jp/